

令和6年度 保護林モニタリング調査結果報告

北海道森林管理局
株式会社環境指標生物

1. 保護林モニタリング調査について
2. 令和6年度モニタリング調査対象保護林
3. モニタリング調査結果報告
 - 3-1. 森林生態系保護地域（1箇所）
 - 3-2. 生物群集保護林（5箇所）
 - 3-3. 希少個体群保護林（31箇所）

1. 保護林モニタリング調査について

1 保護林モニタリング調査について

本調査の目的

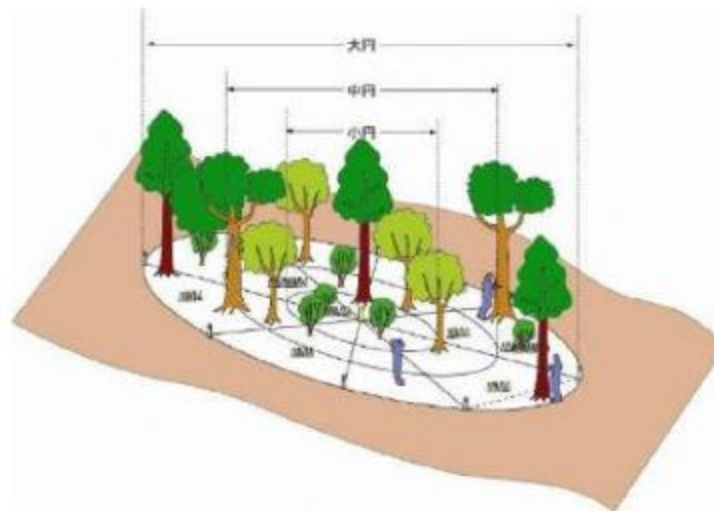
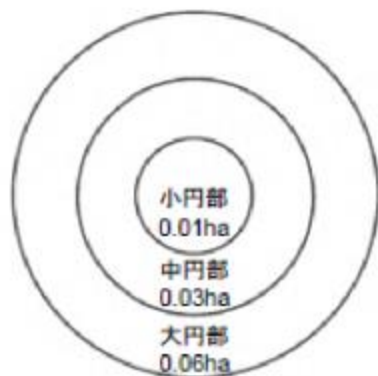
- 林野庁は、国有林内の原生的な天然林や希少な動植物の生息・生育地に保護林を設定している。
- 本調査は、保護林の保全・管理を行うために、保護林の現状を的確に把握し、個々の保護林の現状に応じたきめ細やかな保全・管理の推進に資するため、保護林の設定目的に照らして保護林を評価することを目的とする。
- 平成27年度に保護林制度は改正され、平成29年度より新たな保護林3区分に再編された。
- 平成29年3月に「保護林モニタリング調査マニュアル」が改訂された。
- 本調査は「保護林モニタリング調査マニュアル」及び「北海道森林管理局版 森林概況調査等マニュアル」に則り実施した。

1 保護林モニタリング調査について

保護林モニタリング調査方法

①-1. 森林詳細調査（毎木調査）

- ・ 調査マニュアルに従った0.1ha円形プロット内での毎木調査
- ・ その他、定点写真の撮影0



円形調査プロット（全体0.10ha）

毎木調査

細分	胸高直径対象木
小円部	1cm以上の全て
中円部	5cm以上
大円部	18cm以上

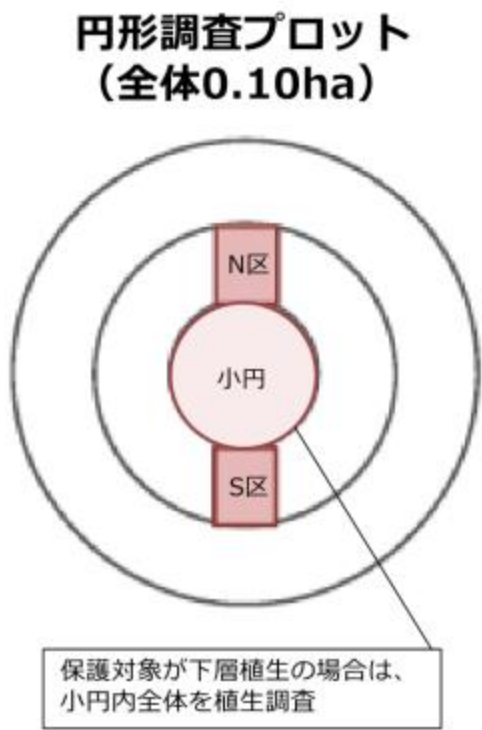
※過年度結果との比較時に、小円部における計測対象木が異なる(増加している)ことに留意が必要。

1 保護林モニタリング調査について

保護林モニタリング調査方法

①-2. 森林詳細調査（下層植生調査）

4m×6mの区画内（N区、S区の2箇所）で植生調査を実施



植生調査（下層植生調査）

細分	調査対象（調査区画内の全出現種）
中円の内周と 外周の間 (N区・S区の2箇所)	低木層（S）及び草本層（H）の植被率、 優占種名とその他出現種名
調査区以外の特記種	調査区以外の特記種や優占種など

※過年度結果との比較時に区画が異なるため、経年変化等の比較がやや難しい。

保護林モニタリング調査方法

- ・概ね5年ごとに実施する簡易な現況調査。
- ・保護林調査プロットで、右の野帳に沿った森林概況調査と定点写真撮影を行う。
- ・過年度調査結果と比較し、林況に変化が認められた場合に対策を検討する。

- ・各保護林で確認された影響があれば、
 - ア. 野生鳥獣、
 - イ. 病虫害、
 - ウ. 外来種、
 - エ. 温暖化、
 - オ. 自然攪乱、
 - カ. その他　より選択して記録する。

[illegible]

注) 組換え：単位面積当たりに対して、種子が各要素を占める箇所の割合であり、目視観察により求める。

May 2014/2015

緑地保全について				保護林およびゾナ付地			
指定する緑地種(増設可)				経年率 (%)	N ₂	林深・樹高	-
天然更新状況	保護対象地	☐ なし	☐ あり	☐ 多い ☐ 普通にみられる ☐ 少ない 一級区内部 ☐ 低木 ☐ 苗木・喬木 ☐ 落葉 ☐ 常緑・下木			
	保護対象地以外	☐ なし	☐ あり	☐ 多い ☐ 普通にみられる ☐ 少ない 一級区内部 ☐ 低木 ☐ 苗木・喬木 ☐ 落葉 ☐ 常緑・下木			

写真撮影

項目 (撮影した時は写真の記入)	中心防護帯 写真あり	北方面 写真あり	東方面 写真あり	南方面 写真あり
	☐ あり	☐ なし	☐ あり	☐ なし
	☐ あり	☐ なし	☐ あり	☐ なし
	☐ あり	☐ なし	☐ あり	☐ なし
	☐ あり	☐ なし	☐ あり	☐ なし

保護林の状況で気づいたこと（自由記述）

※保護林内の樹高、天然更新、草少理、気象害・動物害・獣害の程度等について、詳細を記述する。

※下記の項目について、留意することが望ましい。

- ・保護林の健全度
- ・保護対象地の生育状況
- ・天然更新状況
- ・近接本郷、枯木等の状況
- ・林深・樹高
- ・草少理や特徴的な樹木
- ・動物による影響（食害、採餌や糞など）
- ・気象による被害等
- ・保護林内移動中に気づいたこと等

※その他、写真で確認できなかった場合(写真撮影の際に収まらない場合)は、この自由欄に写真内容と名称を記載しておくこと。

出典の他、写真を複製した場合は(写真撮影の場には定まらない場合)は、この頁自署に写真内容と題を記載しておくこと。

Yr. 2004/2017

1 保護林モニタリング調査について

保護林モニタリング調査方法

③資料調査

- ・ 保護林の森林タイプの分布等状況（人工林・天然林別など）や論文の発表状況等を整理する。
- ・ 森林生態系多様性基礎調査（林野庁が実施している全国的な森林）も対象保護林で実施されていれば、その結果も活用する。

森林タイプの分布等状況 取りまとめ例 →
(知床)

最新の森林簿データを利用し、GIS等を活用して、
人工林及び天然林等の分布を表示。

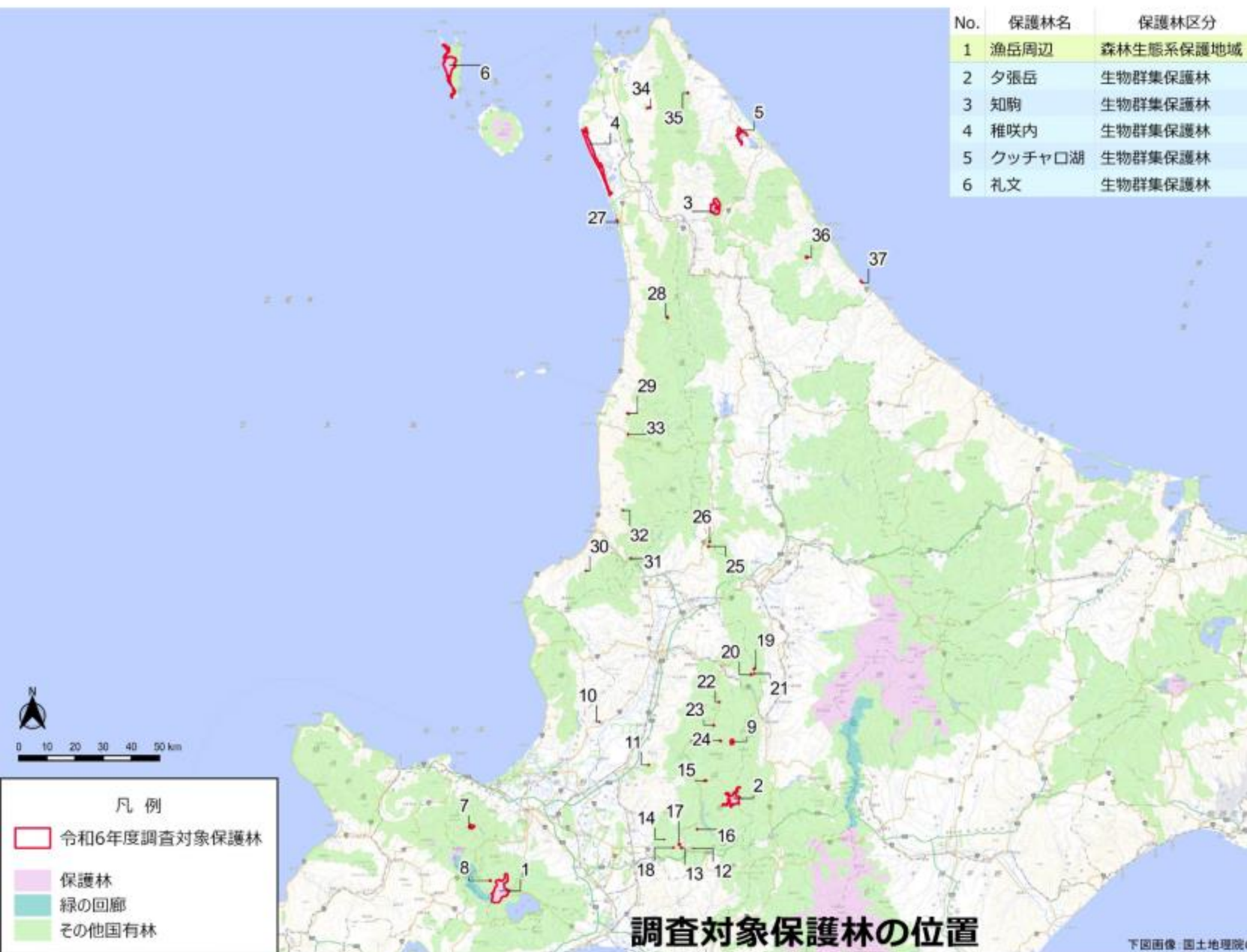
その他、資料調査として、前回調査以降に行われた樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、森林への被害状況、保護林関連論文の発表状況等の情報を収集する。



2. 令和6年度モニタリング調査対象保護林

令和6年度 調査対象保護林と調査項目

No	保護林名称	タイプ	管轄署	面積 (ha)	所在 市町村	資料調査	モニタリング調査				森林生態 系多様性 基礎調査	No	保護林名称	タイプ	管轄署	面積 (ha)	所在 市町村	資料調査	モニタリング調査				森林生態 系多様性 基礎調査
							森林概 況調査	森林詳 細調査	植生方形 区調査	その他 調査									森林概 況調査	森林詳 細調査	植生方形 区調査	その他 調査	
1	湯岳周辺	森林生態系保護地域	石狩	3266.60	恵庭市 札幌市 千歳市	○		2			4	21	落込シラカンバ遺伝資源	希少個体群保護林	空知	4.35	芦別市		2				
2	夕張岳	生物群集保護林	空知 上川南部	1448.87	夕張市 南富良野町	○	2		5		2	22	類滅ヤチハンノキ遺伝資源		空知	4.96	芦別市		2				
3	知駒		宗谷	1233.43	中頓別町	○	3				3	23	秋別オオハバダイジュ遺伝資源		空知	11.79	芦別市		2				
4	稚内内		宗谷	2017.52	豊富町 幌延町	○	4				2	24	惣戸別ミズナラ等遺伝資源		空知	11.74	芦別市		2				
5	クッチャロ湖		宗谷	383.84	浜頓別町	○		2		鳥類	2	25	雁泊ベニイタヤ等遺伝資源		北空知支	13.06	深川市		2				
6	礼文島		宗谷	2391.30	礼文町	○		5			5	26	雁泊イタヤカエデ遺伝資源		北空知支	9.86	深川市		2				
7	天狗岳高山植物	希少個体群保護林	石狩	177.45	札幌市		2					27	天塩カシワ遺伝資源		留萌北部	12.89	天塩町		2				
8	進入ハイデ風穴植生		石狩	13.71	札幌市			2				28	東道別ハリギリ等遺伝資源		留萌北部	16.97	遠別町		2				
9	雁山高山植物		空知	164.93	芦別市			2				29	羽根キハダ遺伝資源		留萌北部	14.30	羽幌町		2				
10	月形スギ		空知	2.12	月形町			2				30	増毛グイマツ遺伝資源		留萌南部	4.28	増毛町		2				
11	三笠テウセンカラマツ		空知	0.81	三笠市		2					31	西横断ミズナラ遺伝資源		留萌南部	8.69	留萌市		2				
12	ボンクルキ地区ミズナラ		空知	1.00	夕張市		2					32	達布ヤチダモ遺伝資源		留萌南部	5.00	小平町		2				
13	紅葉山ケヤマハンノキ		空知	14.57	夕張市			2				33	古丹別トドマツ遺伝資源		留萌南部	6.05	苫前町		2				
14	栗穂ミズナラ		空知	1.00	栗山町		2					34	曲瀬グイマツ遺伝資源		宗谷	25.58	稚内市		2				
15	奥主夕張ヤチダモ等遺伝資源		空知	18.75	夕張市		2					35	鬼志別エゾマツ遺伝資源		宗谷	9.19	猿払村		2				
16	南部エゾマツ遺伝資源		空知	7.78	夕張市		2					36	志美半丹ミズナラ等遺伝資源		宗谷	37.89	枝幸町		2				
17	紅葉山イチイ等遺伝資源		空知	10.13	夕張市	○		2			1	37	音模モンゴリナラ遺伝資源		宗谷	15.87	枝幸町		2				
18	紅葉山シロエゾマツ遺伝資源		空知	4.79	夕張市		2																
19	落込アカエゾマツ遺伝資源		空知	17.78	芦別市		2																
20	落込トドマツ遺伝資源		空知	15.11	芦別市		2																



No.	保護林名	保護林区分
1	漁岳周辺	森林生態系保護地域
2	夕張岳	生物群集保護林
3	知駒	生物群集保護林
4	稚咲内	生物群集保護林
5	クッチャロ湖	生物群集保護林
6	礼文	生物群集保護林

No.	保護林名	保護林区分
7	天狗岳高山植物	希少個体群保護林
8	漁入ハイデ風穴植生	希少個体群保護林
9	峠山高山植物	希少個体群保護林
10	月形スギ	希少個体群保護林
11	三笠チョウセンカラマツ	希少個体群保護林
12	ボンクルキ地区ミズナラ	希少個体群保護林
13	紅葉山ケヤマハンノキ	希少個体群保護林
14	築穂ミズナラ	希少個体群保護林
15	奥主タ張ヤチダモ等	希少個体群保護林
16	南部エゾマツ遺伝資源	希少個体群保護林
17	紅葉山イチイ等遺伝資源	希少個体群保護林
18	紅葉山シロエゾマツ遺伝資源	希少個体群保護林
19	落込アカエゾマツ遺伝資源	希少個体群保護林
20	落込トドマツ遺伝資源	希少個体群保護林
21	落込シラカンバ遺伝資源	希少個体群保護林
22	頼城ヤチハンノキ遺伝資源	希少個体群保護林
23	咲別オオバコダイジュ遺伝資源	希少個体群保護林
24	惣戸別ミズナラ等遺伝資源	希少個体群保護林
25	鷹泊ベニイタヤ等	希少個体群保護林
26	鷹泊イタヤカエデ	希少個体群保護林
27	天塩カシワ遺伝資源	希少個体群保護林
28	東遠別ハリギリ等	希少個体群保護林
29	羽幌キハダ遺伝資源	希少個体群保護林
30	増毛グイマツ遺伝資源	希少個体群保護林
31	西幌糠ミズナラ遺伝資源	希少個体群保護林
32	達布ヤチダモ遺伝資源	希少個体群保護林
33	古丹別トドマツ遺伝資源	希少個体群保護林
34	曲淵グイマツ遺伝資源	希少個体群保護林
35	鬼志別エゾマツ遺伝資源	希少個体群保護林
36	志美宇丹ミズナラ等遺伝資源	希少個体群保護林
37	音標モンゴリナラ遺伝資源	希少個体群保護林

調査対象保護林の位置

3. モニタリング調査結果報告

3-1. 森林生態系保護地域

3-1.森林生態系保護地域（1箇所）

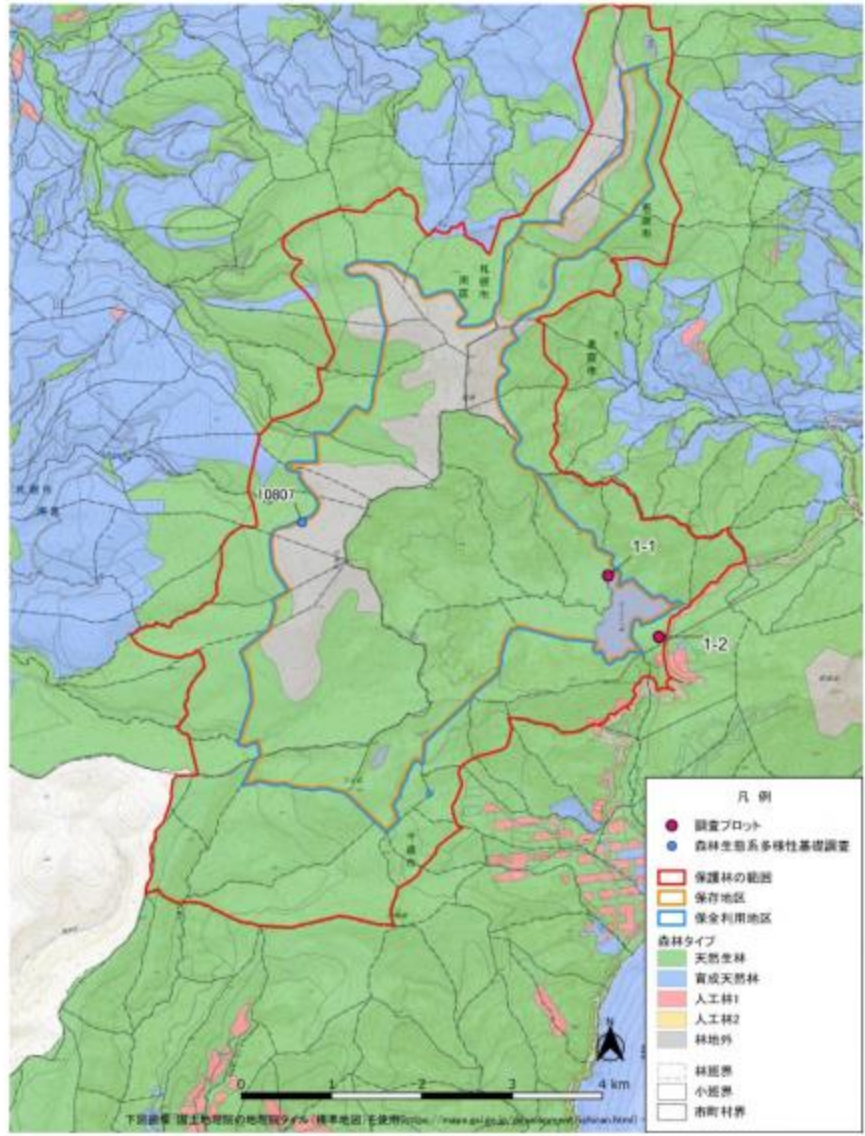
保護林名(面積)	10005 漁岳周辺森林生態系保護地域（3,266.60ha 保存地区:1,511.55ha/保全利用地区:1,755.05ha）
保護対象	北海道中央部のエゾマツ・トドマツ林から北海道南部（渡島半島）のブナ林への移行地域に位置し、北方性の常緑針葉樹と落葉広葉樹からなる多様な森林群落が原生的な状態で成立している。
前回保護林調査	R1
今回の調査方法等	・資料調査 ・保護林森林概況調査（2箇所） ・森林生態系多様性基礎調査（1箇所）
調査林分の状況等	・プロットNo.1-1では、ダケカンバの大径木を多く含む林分であり、一部では枯損木が確認された。 ・プロットNo.1-2では、林相に大きな変化はないが、林床にシカの食痕が多く確認された。 ・林相に大きな変化はなく、大きな森林被害も確認されなかった。
調査周期	10年ごと 森林生態系多様性基礎調査（林野庁）による現地調査が実施されていることから、それらの情報を活用する。
評価・課題・対応(案)	確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱] ・シカの影響が確認されたため、調査間隔を5年に変更し、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。 ・次回のモニタリングの際には、大径木の枯損が局所的なものかどうかを把握するため、上空からのドローン撮影による立木の状況調査も検討する。

1 漁岳周辺森林生態系保護地域

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

北方性の常緑針葉樹と落葉広葉樹からなる多様で原生的な森林群落

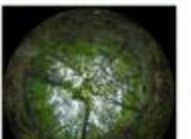


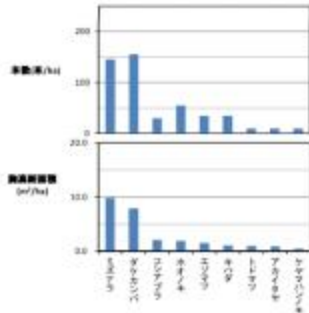
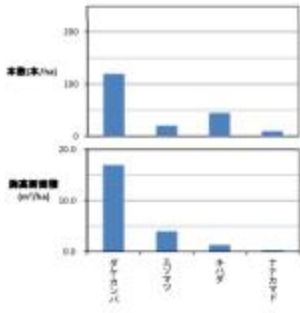
1 漁岳周辺森林生態系保護地域

プロットNo.1-1

	R1	R6	比較結果等
縦北方向			大きな変化はない。
縦東方向	写真なし		枯損木が確認された。
縦南方向			大きな変化はない。
縦西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.1-2

	R1	R6	比較結果等
縦北方向			大きな変化はない。
縦東方向	写真なし		-
縦南方向			大きな変化はない。
縦西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。



保護林森林概況調査 総括

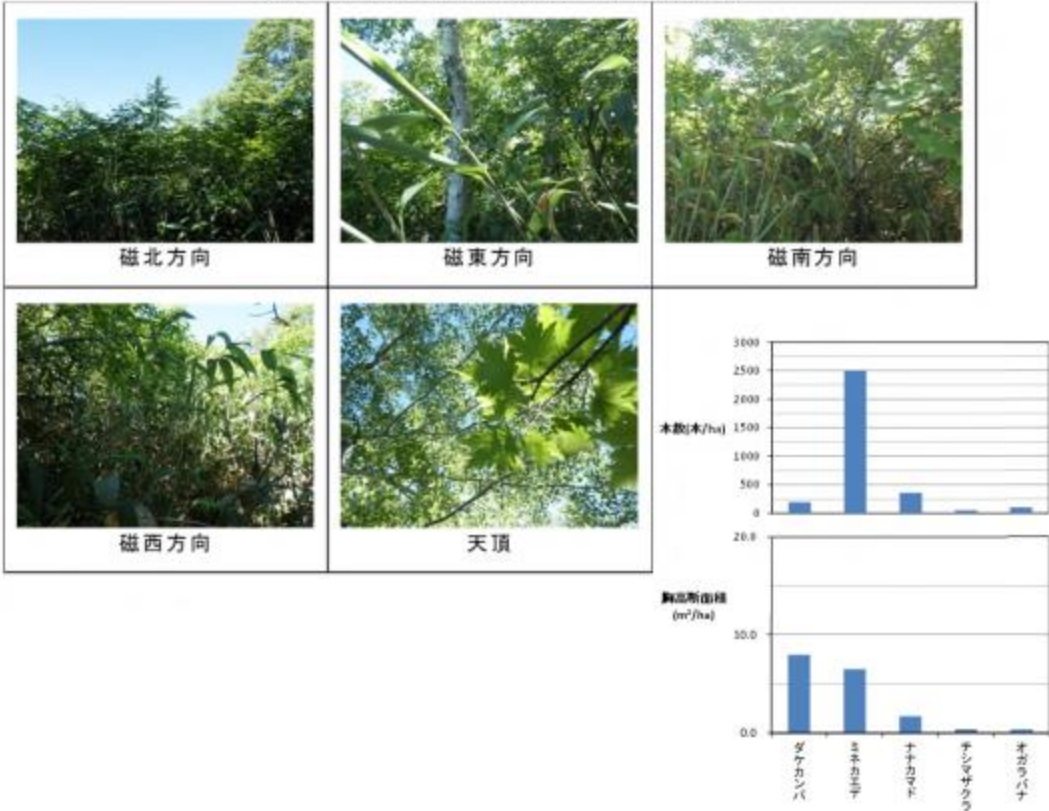
保護林名	漁岳周辺森林生態系保護地域			
プロットNo.	1-1		1-2	
IDNo.	10005-2		10005-1	
調査日	2019/10/11	2024/6/5	2019/10/11	2024/6/5
標高	669m		618m	
調査方位、傾斜(平地)	3°		NE 13°	
局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ミズナラ
	【高】樹高	10~20m	12~25m	10~20m
	【高】樹冠率	-	70%	-
	【高】DBH	20~30cm	18~66cm	30cm以上
	【中】主要構成樹種	トドマツ	キハダ	ケヤマハシノキ
	【中】樹高	5~10m	7~14m	5~10m
	【中】樹冠率	20%	-	-
	【中】DBH	10cm未満	20~24cm	10~20cm
	【低】主要構成樹種	-	トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	-	2~5m	1~5m
鳥獣類痕跡	【低】樹冠率	-	1%	-
	【低】DBH	-	7cm	5cm未満
	最大樹高樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	トドマツ
	樹高	18m	25.4m	22m
	最大直径樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	トドマツ
	直径	25cm	66.0cm	60cm
	気象害	-	-	風害(中)
	病虫害	-	-	-
	気象、病虫害のコメント	-	-	トドマツ大径木の風倒あり
	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞、角研	シカ道、合宿	合宿、糞、角研
林床植生	その他痕跡	ヒグマ	-	-
	痕跡の程度	中	小	小
	痕跡のコメント	-	-	エゾシカ個体1頭目視
	エゾシカ痕跡	エゾシカ	エゾシカ	エゾシカ
	痕跡のコメント	-	-	エゾシカの休息跡あり
	優占する植物種	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ
	樹冠率	密生	90%	密生
	樹生高	-	-	-
	天然更新状況	普通	普通	普通
	天然更新のコメント	-	-	多い
保護林の状況	プロット手前でセグマに遭遇したため、代替地点として設定した。		ダケカンバの大径木が多い。枯損木は数本確認された。林床にはシカの平嗜好植物が多く、エゾシカの影響がやや懸念されるが、天然更新は普通に見られ、林分は概ね健全である。	
	-		風倒木やや多い。エゾマツの倒木更新あり。	
林分等の状況	大きな変化は認められない		大きな変化は認められない	
	大きな変化は認められない		大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]		確認された影響[-]	
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然復元 カ:その他 一:特になし		ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然復元 カ:その他 一:特になし	
林況写真	引き続きモニタリングによる経過観察を行う		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
	留意が必要である		留意が必要である	
林況写真				

1 漁岳周辺森林生態系保護地域

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

森林生態系多様性基礎調査(ID10807)



ID	優占種	発達段階	高木層		亜高木層		施業 形跡	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
10807	ダケカンバ、ミネカエデ	天然更新 成熟	12 ~ 15	40%	8 ~ 12	10%	なし	なし

確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱]
・林床にシカの食痕が多く確認されているため、調査間隔を5年に変更し、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。
・大径木の枯損が局所的なものかどうかを把握するため、上空からのドローン撮影による立木の状況調査も検討する。

3. モニタリング調査結果報告

3-2.生物群集保護林（5箇所）

3-2.生物群集保護林（5箇所）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
2	20002	夕張岳 生物群集保護林 (1,448.87ha)	夕張岳周辺の蛇紋岩、かんらん岩などの超塩基性岩帯に見られる地域固有の生物群集を有する森林	H24 R1	・資料調査 ・植生方形区調査(5箇所) ・保護林森林概況調査(2箇所) ・森林生態系多様性基礎調査(2箇所)	【高山帯】 ・各地点とも、エゾウサギギク等、北海道の高山に特徴的な種が確認された。 ・前回調査時と比較して、被度の低い種の入替わりはあるものの、本来の植生が保たれており大きな変化はないと考えられる。 ・プロットNo.2-方1及びNo.2-方3では、優占種が置き換わり、どちらの方形区もイネ科草本の生育数が減少したが、植被率に大きな変化はなく、遷移の一過程と考えられる。 ・全地点について、食害や気象害は確認されなかった。 【樹林帯】 ・森林の状況に大きな変化は確認されなかった。おおむね健全な林分である。	高山 植生 5年 森林 10年	確認された影響[特になし] ・本保護林は健全な状態が確認された。おおむね良好に保護・管理されているといえる。 ・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。
3	20003	知駒 生物群集保護林 (1,233.43ha)	蛇紋岩地帯の知駒地域に成育したアカエゾマツ純林や針広混交林に見られる地域固有の生物群集を有する森林	R1	・資料調査 ・保護林森林概況調査(3箇所) ・森林生態系多様性基礎調査(3箇所)	・立木の生育状況は健全であった。 ・林床はチシマザサが密生する箇所が多いが部分的に天然更新もみられ、林分として良好な状態を維持していた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。
4	20004	稚咲内 生物群集保護林 (2,017.52ha)	サロベツ地域の海岸砂丘林に見られる地域固有の生物群集を有する森林	R1	・資料調査 ・保護林森林概況調査(4箇所) ・森林生態系多様性基礎調査(2箇所)	・立木の生育状況は健全であり、天然更新は各地で多くみられ、林分として非常に良好な状態を維持していた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

3-2.生物群集保護林（5箇所）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
5	20005	クッチャロ湖 生物群集保護林 (383.84ha)	ラムサール条約にも登録されているクッチャロ湖に隣接し、特有の湿地環境に見られる地域固有の生物群集を有する森林	R1	・資料調査 ・保護林森林詳細調査(2箇所) ・森林生態系多様性基礎調査(2箇所) ・鳥類調査	・プロット1では、林相について大きな変化は確認されなかった。風倒木が数本確認されたが、立木は健全な状態であった。 ・プロット2では、林床にシカの食痕が多く確認された。立木については、健全な状態であった。	10年	確認された影響[野生鳥獣] ・エゾマツ林では大きな変化はなく、森林被害も確認されず、おおむね良好な状態であった。 ・溪畔林では、林床にシカの食痕が多く確認されたが、立木は健全な状態であった。 ・本保護林はおおむね良好に保護・管理されているが、シカの影響や気象害について留意が必要なため、調査間隔を5年に変更し、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。
6	20007	礼文島 生物群集保護林 (2,391.30ha)	礼文島に見られる地域固有の生物群集を有する森林	H26 R1	・資料調査 ・保護林森林詳細調査(5箇所) ・森林生態系多様性基礎調査(5箇所)	【レブンアツモリソウ群生地】 ・プロット内では、前回調査で確認された[]が確認されず、一部では盗掘跡の可能性のある古い痕跡が確認された。 【西海岸の植物群落】 ・ダケカンバ低木林では、状況は変化しておらず、胸高断面積の増加がみられた。 ・草地群落では、出現種はやや減少したが、ガンコウランが優占する状況に変化はなく、林床は過年度調査時と比較して大きな変化はないと考えられる。 【ハイマツ帯】 ・ハイマツとチシマザサが密生する状況に、大きな変化はないと考えられる。	1年 ないし 5年	確認された影響[その他] ・樹林部、草原部ともに大きな変化や森林被害もなく、到達経路上においても、高山植物も多く確認され、自然環境としてはおおむね良好な状態を保っているといえる。 ・痕跡は古いですが、[]の盗掘跡と見られる痕跡が確認されたことから、引き続き関係機関と連携しながら巡視を実施していく。気象害についても注視していく。

2 夕張岳生物群集保護林

実施した現地調査

植生方形区プロット調査(5箇所)、保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

夕張岳周辺の蛇紋岩、かんらん岩などの超塩基性岩帯に見られる地域固有の生物群集を有する森林



夕張岳全貌 2024.7.11



高山帯の状況 ガマ岩2024.7.11

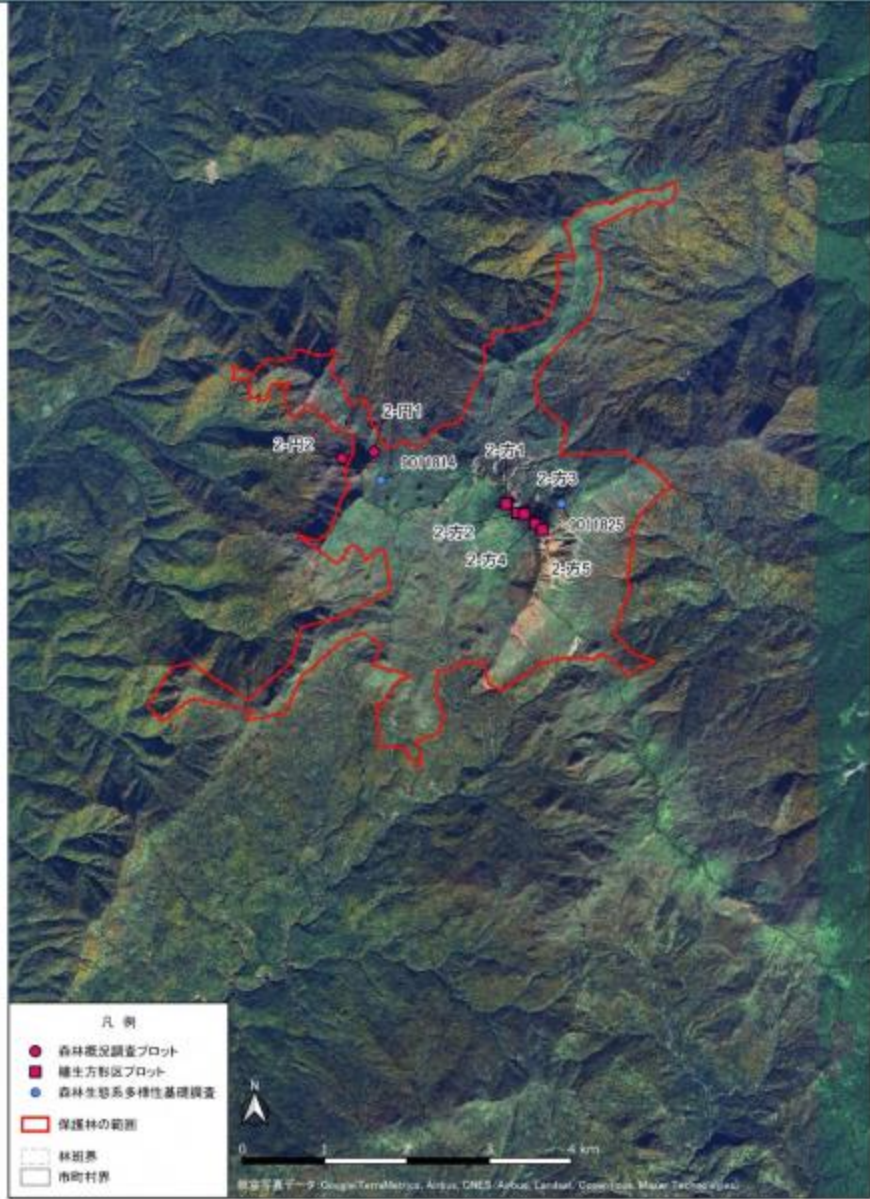
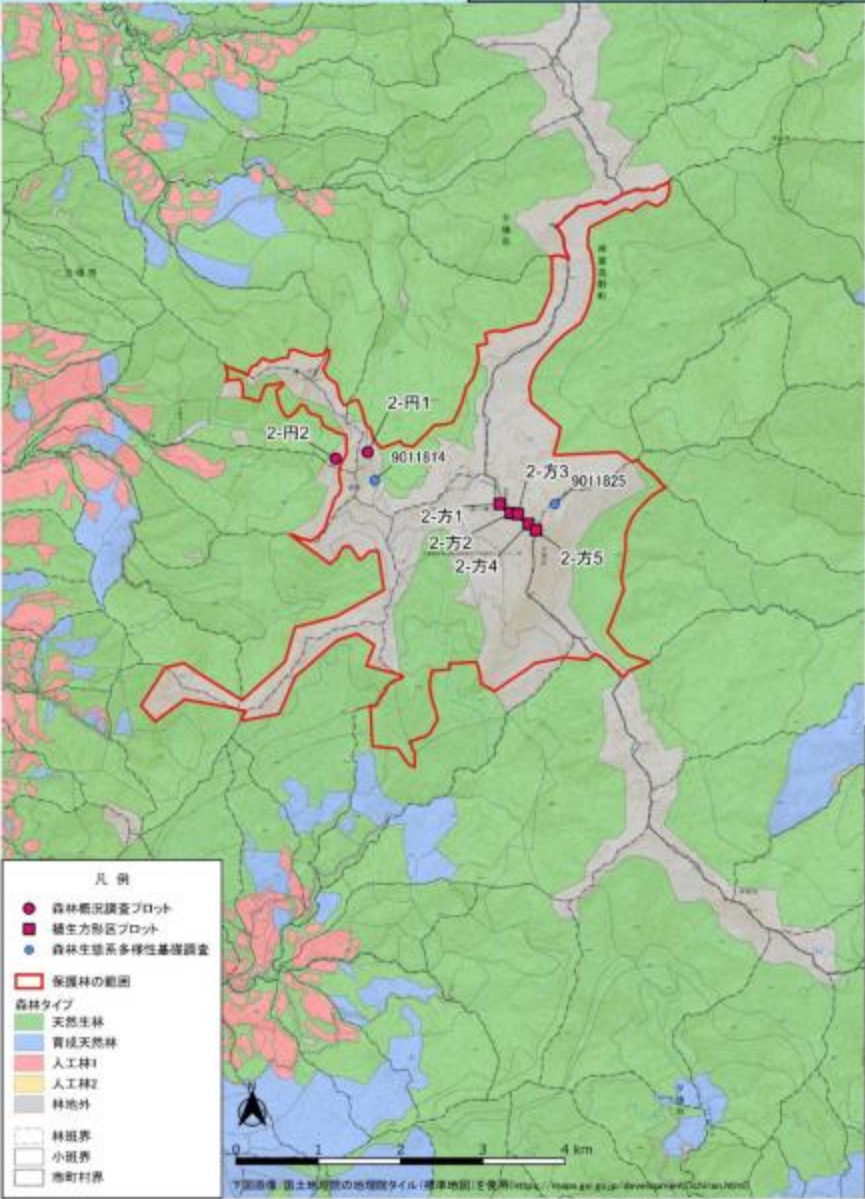


高山帯の状況（高層湿原） 2024.7.11

2 夕張岳生物群集保護林

実施した現地調査

植生方形区プロット調査(5箇所)、保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)



2 夕張岳生物群集保護林

調査地点位置図



H24

R6



植生群落組成表

調査区番号	2-方1	2-方2	2-方3	2-方4	2-方5
調査年月	2012年4月20日	2024年7月11日	2012年4月20日	2024年7月11日	2012年4月20日
方位	N54° W	N28° E	S70° W	W	S30° W
傾斜(°)	22°	8°	20°	25°	37°
調査面積(m×m)	1×1	1m×1m	1m×1m	1m×1m	1m×1m
地形	やせ尾根	やせ尾根	山腹平斜面	やせ尾根	やせ尾根
草本層1の高さ(m)	-	-	-	0.8	0.8
草本層1の被覆率(%)	-	-	-	100	95
草本層2の高さ(m)	0.5	0.1	0.9	0.2	0.2
草本層2の被覆率(%)	80	70	40	30	40

出現種数	9	8	3	4	14	13	8	9	9	6
低木層										
ハイマツ							5・5	5・5	5・5	4・4
ミヤマハシロノキ										
タカネナナカマド							1・2			
草本層										
エゾウサギギク	4・4	2・2								
イネ科の一種			2・2	2・2		1・1		+	2・2	2・2
エゾタカネツメクサ										
ナガバキタアザミ			2・2	2・2	3・3	1・1				
ユキハシゴタイ										
ミヤマヤナギ									2・2	1・1
コケモモ							1・2	+	1・2	
エゾヒメクワガタ	1・1	1・2								
イワノガリヤス					2・2		2・2	+		
ガンコウラン										
ヒメゴヨウイサゴ					2・2	+				
ミヤマスカボ	2・2									
ナンブソモソ									+	1・2
エゾオヤマリンドウ					+	1・1		+	+	
キバナシャクナゲ										
キバナノコマノツメ						1・1				
スズランの一種①		1・1								
スズランの一種②		1・1								
マルバシモツケ								1・1		
セリ科の一種		+				+				+
ツマトリソウ								+	+	+
ウメバチソウ	+	+								
エゾゲンナフウロ	+	+								
エゾノヨツバムグラ					+	+				
カラマツソウ					+	+				
シラネニンジン	+								+	
チシマフウロ					+	+				
ハクサンボウフウ	+	+								
ミヤマアキノキリンソウ					+	+				
ミヤマウシノケグサ			+	+						
ミヤマミレ					+	+				
ウラボシツツジ							+			
エゾノヒメクワガタ										
エゾメシタ					+					
エゾヤマゼンコ					+					
カラフトイノヅツジ								+		
ケウスバミレ					+					
シラオイハコベ					+					
スズランの一種	+									
ナガバノシロフクロモコウ					+					
ホソバシゲシダ						+				
ミヤマアズマギク				+						
ミヤマリンドウ	+									
ミヤマワレモコウ						+				
ムカゴトラノオ									+	

・全地点とも前回調査時から大きな変化はないと考えられる。

2 夕張岳生物群集保護林

実施した現地調査

植生方形区調査(5箇所)

植生方形区プロット調査 総括

保護林名		夕張岳生物群集保護林									
プロットNo.		2-方1		2-方2		2-方3		2-方4		2-方5	
旧No.		K22-153-7		K22-153-2		K22-153-1		K22-153-5		K22-153-6	
調査日		2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11
プロット情報	標高	1509m		1520m		1531m		1625m		1668m	
	斜面方位、傾斜(平均)	NW、22°		SW、8°		NE、26°		NW、25°		NW、37°	
	局所地形	やせ尾根		やせ尾根		山腹平衡斜面		やせ尾根		やせ尾根	
	【低・草】優占種	エゾウサギギク	エゾウサギギク	ユキバヒゴタイ	ユキバヒゴタイ	ナガバキタアザミ	エゾオヤマリンドウ	ハイマツ	ハイマツ	ミヤマハンノキ	ミヤマハンノキ
	【低・草】高さ	0.5m	0.1m	0.9m	0.2m	0.8m	0.3m	0.6m	0.8m	0.8m	0.8m
	【低・草】植被率	80%	70%	40%	40%	90%	80%	100%	100%	90%	70%
	攪乱状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	病虫害	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	獣類痕跡【C1】	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真											

- ・各地点とも、エゾウサギギク、エゾタカネツメクサ、ユキバヒゴタイ等、北海道の高山に特徴的な種が確認された。
- ・前回調査時と比較して、被度の低い種の入替わりはあるものの、本来の植生が保たれており大きな変化はなかった。
- ・プロットNo.2-方1及びNo.2-方3では、優占種が置き換わりどちらの方形区もイネ科草本の生育数が減少したが、植被率に大きな変化はなく、遷移の一過程と考えられる。
- ・全地点について、食害や気象害は確認されなかった。

2 夕張岳生物群集保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)

プロットNo.2-円1				プロットNo.2-円2			
目	R1	R6	比較結果等	目	R1	R6	比較結果等
縦北方向			大きな変化はない。	縦北方向			大きな変化はない。
縦東方向	写真なし		-	縦東方向	写真なし		-
縦南方向			大きな変化はない。	縦南方向			大きな変化はない。
縦西方向	写真なし		-	縦西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。	天頂			大きな変化はない。

・森林の状況に大きな変化は確認されなかった。
・おおむね健全な林分であった。

保護林森林概況調査 総括

保護林名		夕張岳生物群集保護林			
プロットNo.		2-1		2-2	
旧No.		20002-1		20002-2	
調査日		2019/9/6	2024/7/11	2019/9/6	2024/7/11
プロット情報		標高 1310m		1255m	
		斜面方位、傾斜(平均)	NE 33°	E 12°	
		局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	-	-	ダケカンバ	ダケカンバ
	【高】樹高	-	-	12~18m	12~18m
	【高】樹冠率	-	-	-	70%
	【高】DEH	-	-	22~56cm	20~60cm
	【中】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	-	-
	【中】樹高	6~8m	8~9m	-	-
	【中】樹冠率	-	10%	-	-
	【中】DEH	15~44cm	35~45cm	-	-
	【低】主要構成樹種	ミヤマハシノキ	ミヤマハシノキ	ナナカマド、ミネカエデ	ミネカエデ
	【低】樹高	2~5m	2~5m	2~4m	2~5m
鳥獣類痕跡	【低】樹冠率	-	90%	-	30%
	【低】DEH	2~10cm	3~15cm	2~5cm	2~5cm
	最大樹高樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ
	樹高	8.5m	8.7m	18.8m	20.9m
	最大直径樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ
	直径	44.9cm	44.7cm	56.5cm	60.0cm
	保護対象種の木数割合	-	-	-	-
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象、病虫害のコメント	-	-	-	-
林床植生	エゾシカ痕跡	食痕	シカ道、食痕	-	シカ道、食痕
	その他の痕跡	-	-	-	-
保護林の状況	痕跡の程度	小	微	-	微
	痕跡のコメント	-	-	-	-
	優占する植物種	サカゲイノザ	チシマザサ	ヒメノガリヤス	ヒメノガリヤス
	樹冠率	80%	90%	85%	80%
林分等の状況	樹生高	-	0.1~2.4m	-	0.1~1.5m
	天然更新状況	普通	普通	普通	普通
評価・課題等確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然復元 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

2 夕張岳生物群集保護林

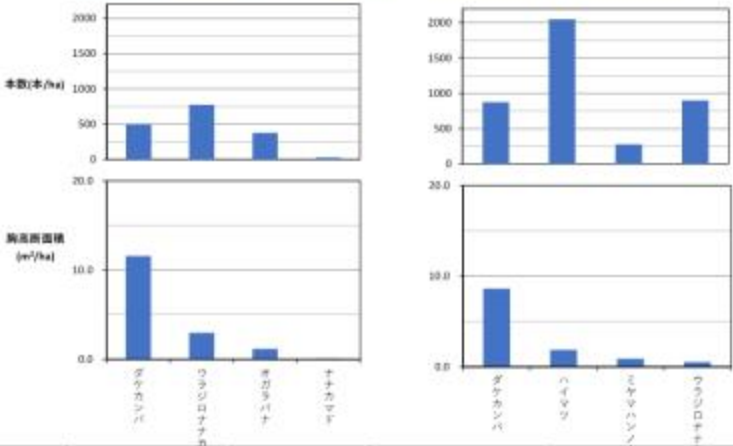
実施した現地調査

植生方形区プロット調査(5箇所)、保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011814

ID9011825



ID	優占種	発達段階	高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
9011814	ダケカンバ	天然更新 成熟	10 ~ 13	60%	4 ~ 7	40%	なし	なし
9011825	ダケカンバ(低木)	天然更新 成熟	-	0%	-	0%	なし	なし

確認された影響[特になし]

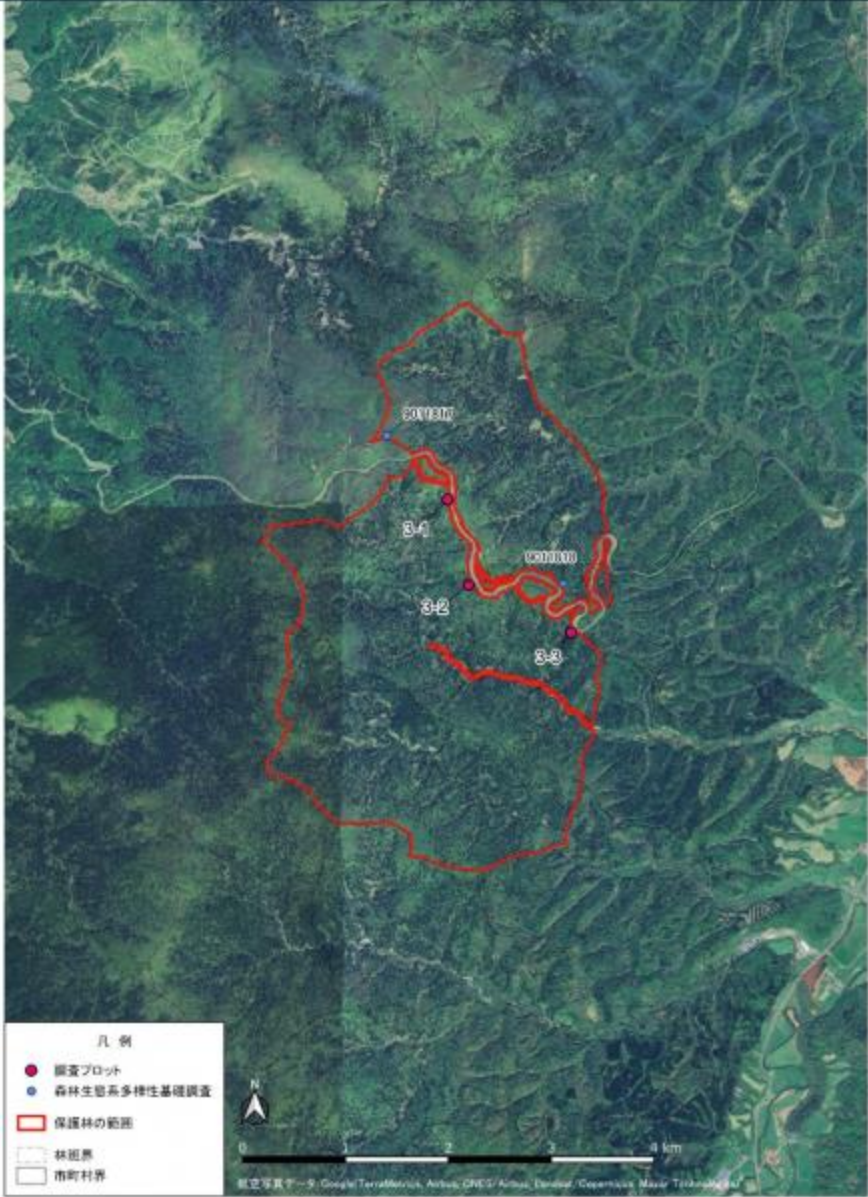
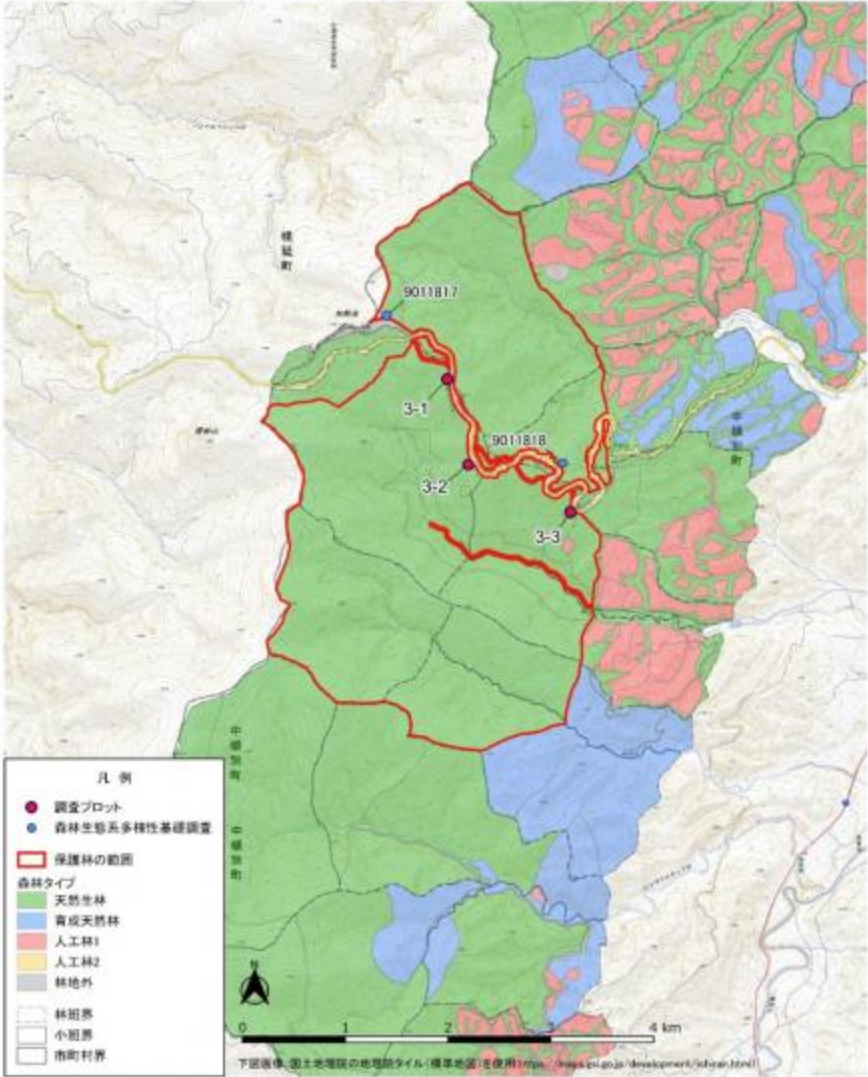
- ・高山帯の各調査地点で植生の大きな変化はみられず、良好な状態が確認された。
- ・樹林帯においては、確認される生立木はおおむね健全な状態であった。また、林床ではササが密生しているが、ほとんどの調査箇所で天然更新が確認された。
- ・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

3 知駒生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(3箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

蛇紋岩地帯の知駒地域に成育したアカエゾマツ純林や針広混交林に見られる地域固有の生物群集を有する森林

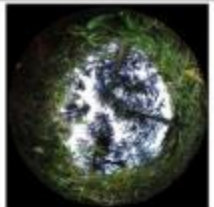


3 知駒生物群集保護林

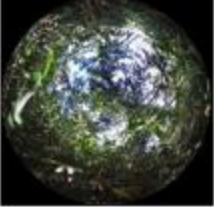
実施した現地調査

保護林森林概況調査(3箇所)

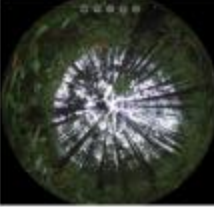
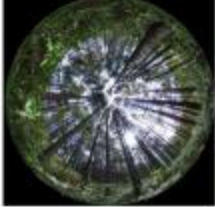
プロットNo.3-1

	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.3-2

	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.3-3

	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

3 知駒生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(3箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

保護林森林概況調査 総括

保護林名	知駒生物群集保護林					
プロットNo.	3-1		3-2		3-3	
旧No.	20003-1		20003-2		20003-3	
調査日	2019/7/30 2024/9/27		2019/8/27 2024/9/26		2019/7/31 2024/9/26	
標高	397m		390m		280m	
斜面方位、傾斜率	NW 28°		NW 18°		W 20°	
所在地	山腹平衝斜面		山腹平衝斜面		山腹平衝斜面	
林分状況	【基】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、ミズナラ	アカエゾマツ
	【基】樹高	17~22m	18~21m	15~17m	16~18m	12~16m
	【基】植栽率	-	30%	-	20%	70%
	【基】JKEH	36~51cm	32~52cm	40~96cm	40~94cm	22~56cm
	【基】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	トドマツ、ダケカンバ	アカエゾマツ	アカエゾマツ、オオノキ、ミズナラ
	【基】樹高	6~8m	15~16m	13~14m	13~15m	16~21m
	【基】植栽率	-	5%	-	10%	30%
	【基】JKEH	15~36cm	20~28cm	23~37cm	25~38cm	15~35cm
	【基】主要構成樹種	コシアブラ、オオカメノキ	コシアブラ、ミズナラ	-	コシアブラ	コシアブラ、アカエゾマツ
	【基】樹高	4~5m	4~8m	-	4~7m	4~7m
鳥獣被害	【基】植栽率	-	5%	-	5%	10%
	【基】JKEH	2~7cm	4~8cm	-	3~8cm	3~8cm
	最大樹高樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	ミズナラ	ミズナラ	アカエゾマツ
	樹高	21.8m	21.0m	17.5m	17.5m	24.2m
	最大直径樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	ミズナラ	ミズナラ	アカエゾマツ
	直径	51.0cm	44.7cm	96.0cm	93.8cm	51.3cm
	気象害	-	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-	-	-
	エゾシカ痕跡	-	シガ道	-	-	-
林床植生	その他の痕跡	-	-	-	-	-
	痕跡の程度	-	-	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-	-	-
	優占する植物種	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ
	植栽率	100%	100%	100%	100%	100%
	植生高	-	1.5~2.3m	-	1.0~2.5m	-
	天然更新状況	普通	普通	少ない	少ない	少ない
	保護林の状況	-	-	-	-	-
	林分の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
林況写真	ア 野生鳥獣 イ 両生類 ウ 外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	エ 気候変動 オ 自然災害 カ その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	写真1					
	写真2					
	写真3					
	写真4					
	写真5					
	写真6					
	写真7					
	写真8					



アカエゾマツの高木

森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011817

ID9011818



ID	優占種	発達段階	成熟	高木層		亜高木層		施設	被害情報等
				高さ(m)	植栽率	高さ(m)	植栽率		
9011817	ダケカンバ	天然更新	成熟	19 ~ 21	30%	6 ~ 13	10%	なし	なし
9011818	ダケカンバ、トドマツ	天然更新	老齢	16 ~ 17	10%	7 ~ 12	20%	なし	なし

確認された影響[特になし]

- ・立木の生育状況は健全であり、林床はチシマザサが密生する箇所が多いが部分的に天然更新もみられ、林分として良好な状態を維持していた。
- ・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

4 稚咲内(わかさかない)生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

サロベツ地域の海岸砂丘林に見られる地域固有の生物群集を有する森林



4 稚咲内生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

プロットNo.4-1

	R1	R6	比較結果等
南北方向			大きな変化はない。
縦断方向	写真なし		-
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向	写真なし		
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.4-2

	R1	R6	比較結果等
南北方向			大きな変化はない。
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.4-3

	R1	R6	比較結果等
南北方向			大きな変化はない。
縦断方向	写真なし		-
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.4-4

	R1	R6	比較結果等
南北方向			大きな変化はない。
縦断方向	写真なし		-
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

4 稚咲内生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

保護林森林概況調査 総括

保護林名	稚咲内生物群集保護林			
プロットNo.	4-1		4-2	
旧No.	20004-1		20004-2	
調査日	2019/8/29	2024/9/24	2019/8/2	2024/9/24
プロット情報				
標高	13m		3m	
斜面方位、傾斜(平均)	SW 18°		0°	
局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ、ミズナラ	ハンノキ
	【高】樹高	10~14m	10~13m	15~17m
	【高】樹皮率	-	70%	70%
	【高】DBH	13~20cm	18~29cm	14~27cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ、エゾイタヤ	-
	【中】樹高	6~9m	7~9m	-
	【中】樹皮率	-	40%	-
	【中】DBH	12~15cm	12~18cm	-
	【低】主要構成樹種	トドマツ、コシアブラ	トドマツ	ハンノキ、エゾニワトコ
	【低】樹高	3~5m	2~5m	2~3m
鳥獣類痕跡	【低】樹皮率	-	20%	-
	【低】DBH	2~5cm	2~5cm	5~10cm
	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	ハンノキ
	樹高	14.5m	13.1m	14.2m
	最大直径樹種	ミズナラ	トドマツ	ハンノキ
	直径	21.8cm	29.0cm	27.3cm
	気象害	風害(微)	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
	エゾシカ痕跡	食痕	-	-
林床植生	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	小	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-
	優占する植物種	チマキザサ	チマキザサ	ミゾソバ
	樹皮率	50%	60%	100%
	樹皮高	-	0.1~1.1m	-
	天然更新状況	普通	普通	多い
	保護林の状況	トドマツの天然更新あり。ミズナラは萌芽のみ。	トドマツの天然更新が盛んであり、ササの薄い箇所には広葉樹の実生もみられる。林分は健全な状態である。	ハンノキは萌芽で天然更新している。林床ではミズバショウ、ミゾソバなどが優占し、林分は健全な状態である。
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
林況写真	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他	-	-	-
	特になし	-	-	-
	写真1			
	写真2			
	写真3			
	写真4			
	写真5			
	写真6			
	写真7			

保護林名	稚咲内生物群集保護林			
プロットNo.	4-3		4-4	
旧No.	20004-3		20004-4	
調査日	2019/8/1	2024/9/24	2019/8/1	2024/9/24
プロット情報				
標高	4m		5m	
斜面方位、傾斜(平均)	W 3°		W 3°	
局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ、シラカンバ	トドマツ、ミズナラ、シラカンバ	トドマツ
	【高】樹高	9~13m	9~13m	16m
	【高】樹皮率	-	80%	-
	【高】DBH	13~29cm	16~31cm	14~24cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ	トドマツ
	【中】樹高	6~8m	7~8m	8~10m
	【中】樹皮率	-	10%	-
	【中】DBH	9~12cm	10~13cm	10~14cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	2~3m	2~3m	2~4m
鳥獣類痕跡	【低】樹皮率	5%	5%	5%
	【低】DBH	2~3cm	2~3cm	1~5cm
	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	樹高	12.9m	12.8m	16.2m
	最大直径樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	直径	29.3cm	30.5cm	24.6cm
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
	エゾシカ痕跡	-	シカ道、糞、角研、食痕	シカ道、糞、角研
林床植生	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	-	小	小
	痕跡のコメント	-	ササの漢草にシカ食痕あり	シダ類にシカ食痕あり
	優占する植物種	チマキザサ	クマイザサ	チマキザサ
	樹皮率	100%	80%	100%
	樹皮高	-	0.3~1.0m	-
	天然更新状況	普通	普通	多い
	保護林の状況	-	ミズナラが優占し、堅果が多くみられる。天然更新もあり、林分は健全な状態である。	トドマツの実生多い
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
林況写真	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他	-	-	-
	特になし	-	-	-
	写真1			
	写真2			
	写真3			
	写真4			
	写真5			
	写真6			
	写真7			

4 稚咲内生物群集保護林

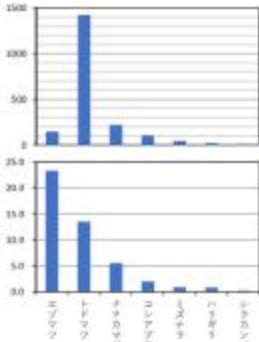
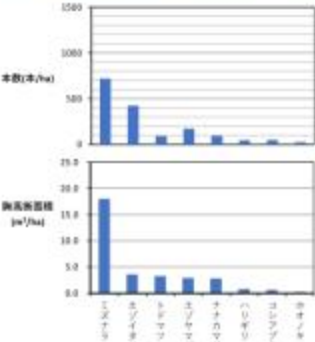
実施した現地調査

保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011819

ID9011820



ID	優占種	発達段階	高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
9011819	ミズナラ	天然更新 成熟	7 ~ 10	90%	4 ~ 6	10%	なし	なし
9011820	エゾマツ, トドマツ	天然更新 成熟	17 ~ 24	70%	12 ~ 16	20%	なし	なし



亜高木層の状況(プロット No.1)



林床植生(プロット No.4)



保護林の外観(プロット No.2)



保護林の外観(プロット No.3)

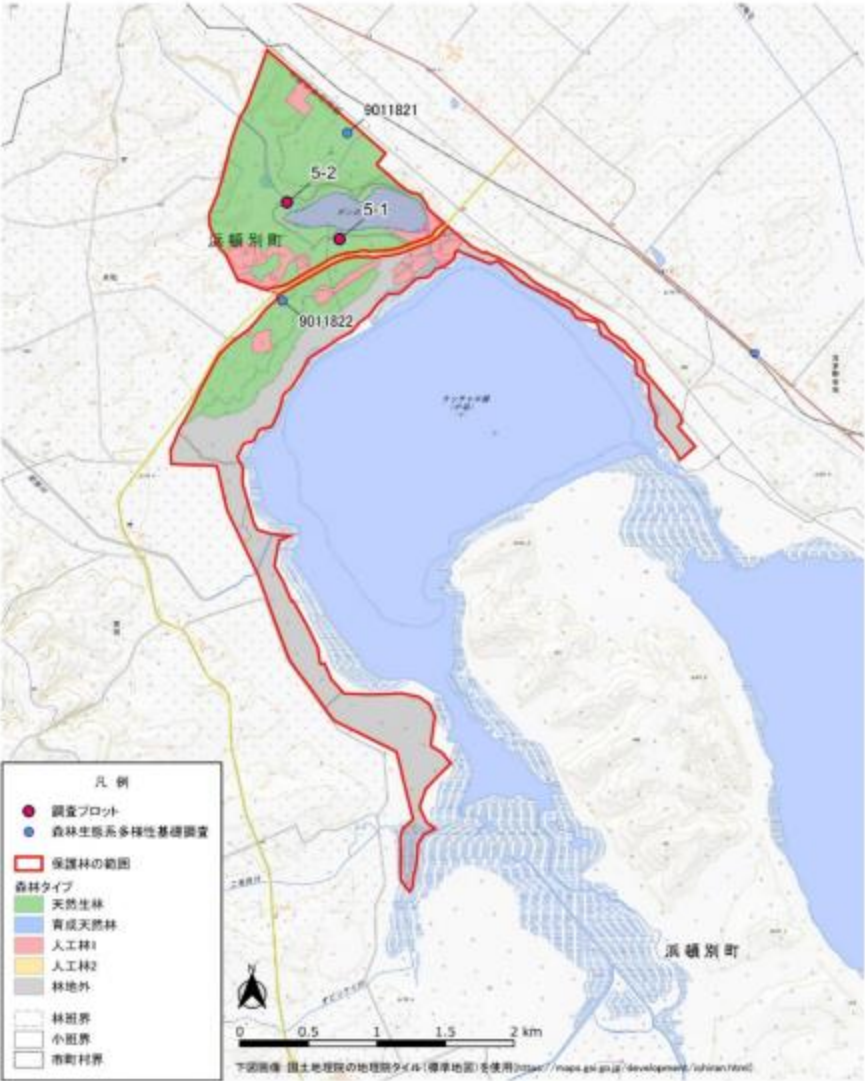
確認された影響[特になし]
・立木の生育状況は健全であり、天然更新は各地で多くみられ、林分として非常に良好な状態を維持していた。
・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

5 クッチャロ湖生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)、鳥類調査

ラムサール条約にも登録されているクッチャロ湖に隣接し、特有の湿地環境に見られる地域固有の生物群集を有する森林



5 クツチャロ湖生物群集保護林

実施した現地調査

鳥類調査

確認された鳥類（繁殖期+越冬期）

No.	目名	科名	和名	学名	繁殖期	越冬期	重要種選定基準			
							1	2	3	4
1	カツコウ	カツコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	○					
2	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○					
3			アオバト	<i>Treron sieboldi</i>	○					
4	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○					
5	ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○					
6	タカ	タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○					
7										
8	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Yungipicus kizuki</i>	○					
9			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○				
10			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>		○				Dd
11	スズメ	カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>		○				
12			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○				
13		シジュウカラ	ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	○	○				
14			ヤマガラ	<i>Sittiparus varius</i>	○					
15			ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>	○					
16			シジュウカラ	<i>Parus cinereus</i>	○	○				
17		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hyppipetes amaurotis</i>	○	○				
18		ウグイス	ウグイス	<i>Horornis diophae</i>	○					
19		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○					
20		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○					
21		センニュウ	エゾセンニュウ	<i>Locustella amnicola</i>	○					
22		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○					
23		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>		○				
24		ツグミ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○					
25			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	○					
26			ツグミ	<i>Turdus eunomus</i>		○				
27		ヒタキ	コマドリ	<i>Larivora akahige</i>	○					
28			キビタキ	<i>Ficedula narsissina</i>	○					
29		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		○				
30			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○					
31			マヒワ	<i>Spinus spinus</i>		○				
計		7目	18科	31種	24種	12種	1種	1種	1種	2種



- ・確認種数は計31種であり、繁殖期ではアオバト、センダイムシクイ、キビタキ等の夏鳥を中心に計24種、越冬期ではツグミ、アトリ、XXXXXXXXXX等の冬鳥を中心に計12種が確認された。
- ・重要種として越冬期にXXXXXXXXXXとオオアカゲラが確認された。
- ・本保護林が希少な鳥類の越冬場所として利用されていることが窺えた。
- ・クツチャロ湖は日本とロシアを渡る水鳥の重要な中継地として、ラムサール条約登録湿地に登録されており、コハクチョウ、オオハクチョウ、ガン、カモ類の飛来、利用が確認されている。
- ・過年度に設定されている調査箇所では調査位置に湖面を視認できる箇所がないため、これらの水鳥の確認はわずかであった。今後はその生息状況を把握するため、調査位置を再設定あるいは追加することを検討する。

注1) 種名及び学名は日本鳥類目録改訂第6版(日本鳥学会 2024)に準拠した。
注2) 重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。
1) 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)、「北海道文化財保護条例」(昭和30年 北海道条例第83号)
特天: 特別天然記念物(国指定)、国天: 天然記念物(国指定)、道天: 天然記念物(道指定)
2) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)
国内: 国内希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種
3) 環境省レッドリスト2020(令和2年環境省)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、
NT: 準絶滅危惧、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、DD: 情報不足
4) 北海道レッドリスト【鳥類編】2017(平成29年 北海道)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅種、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、
NT: 準絶滅危惧、N: 留意、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、DD: 情報不足

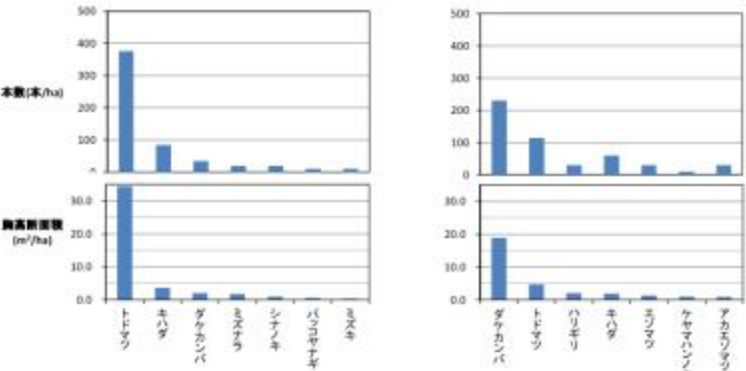
5 クッチャロ湖生物群集保護林

実施した現地調査 保護林森林詳細調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)、鳥類調査

森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011821

ID9011822



ID	優占種	発達段階	高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
9011821	トドマツ	天然更新 成熟	20 ~ 25	90%	10 ~ 15	20%	なし	なし
9011822	ダケカンバ	天然更新 成熟	20 ~ 24	80%	10 ~ 16	30%	なし	なし



保護林の外観



ボン沼



エゾマツ、トドマツ生立木(プロット1)



ハンノキの萌芽(プロット2)

- ・湖を囲むように成立している北方系森林の針葉樹林は、おおむね健全な状況であった。
- ・水際の溪畔林については、立木についてはおおむね健全であったが、林床にシカの食痕が多く確認された。

6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

礼文島に見られる地域固有の生物群集を有する森林



礼文島全景 2024.6.21

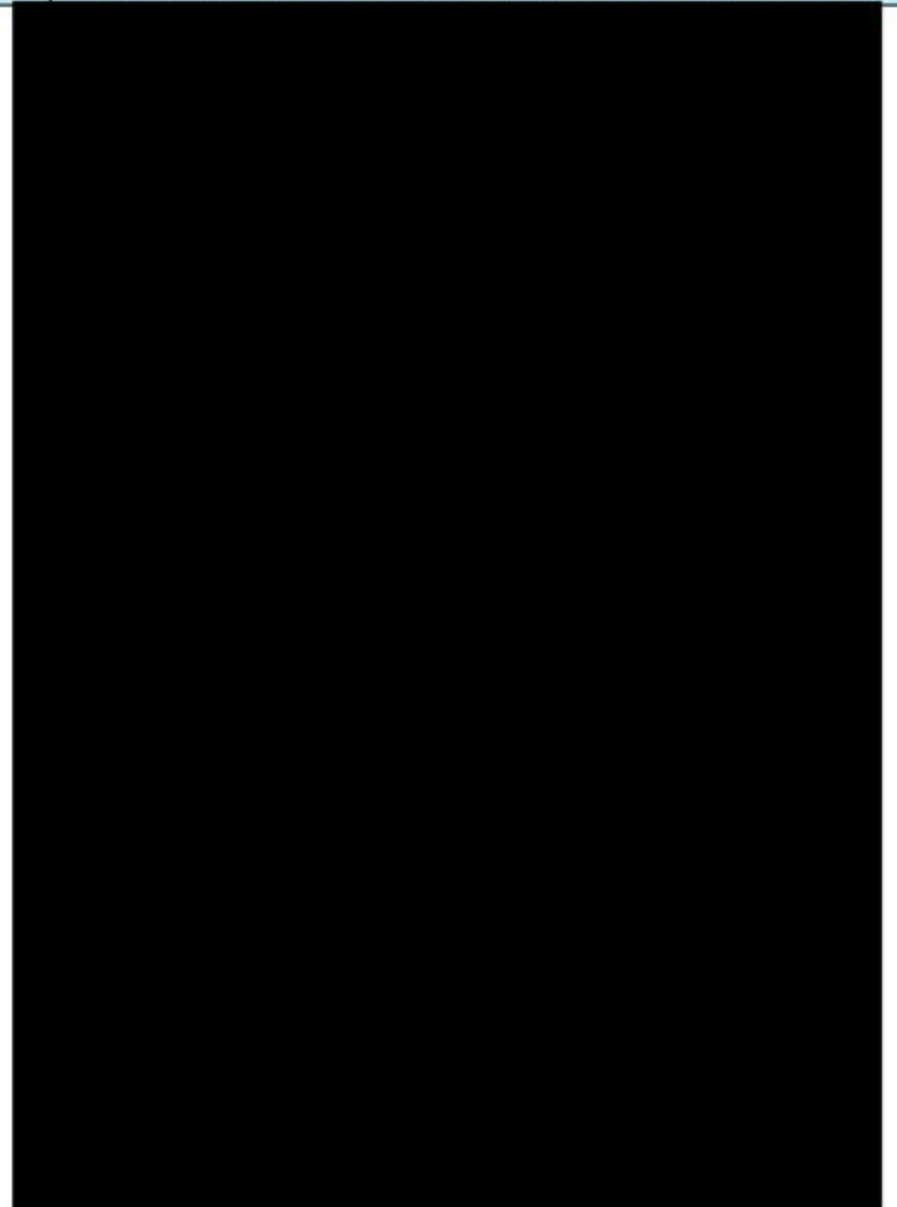
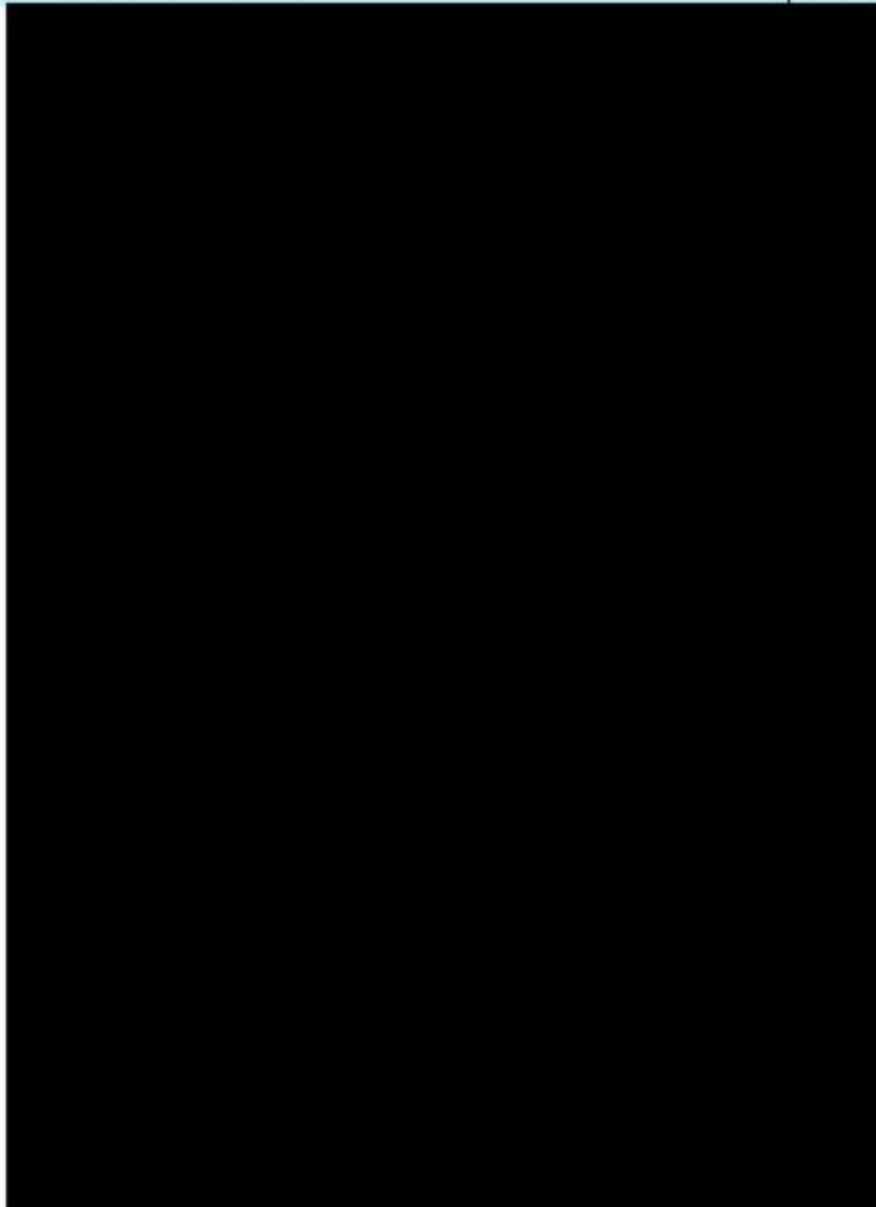


西海岸の草原 2024.6.19

6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)



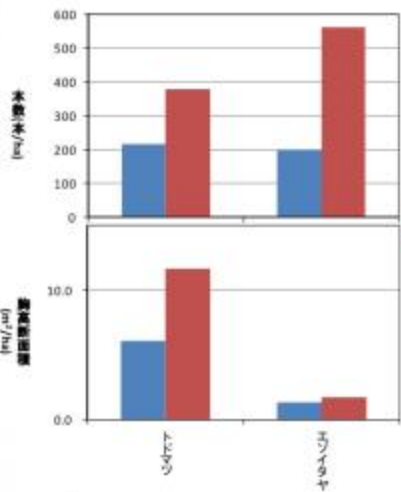
6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

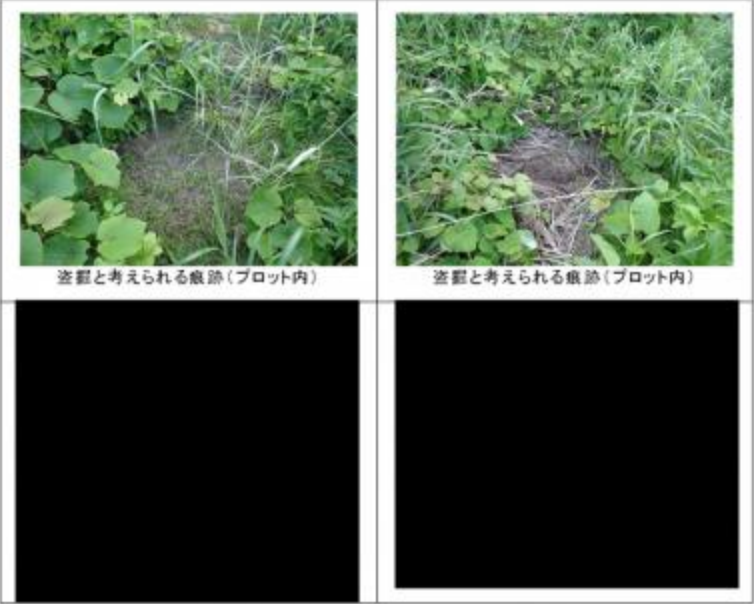
保護林森林詳細調査(5箇所)

レブンアツモリソウ群生地 樹林部 (プロットNo.6-1)

	H26	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。



・プロット1では過年度調査で42株確認された[redacted]が今回の調査では一株も確認されず、古い盗掘跡のようなものが確認された。プロット周辺を踏査したところ、1地点1株が確認された。



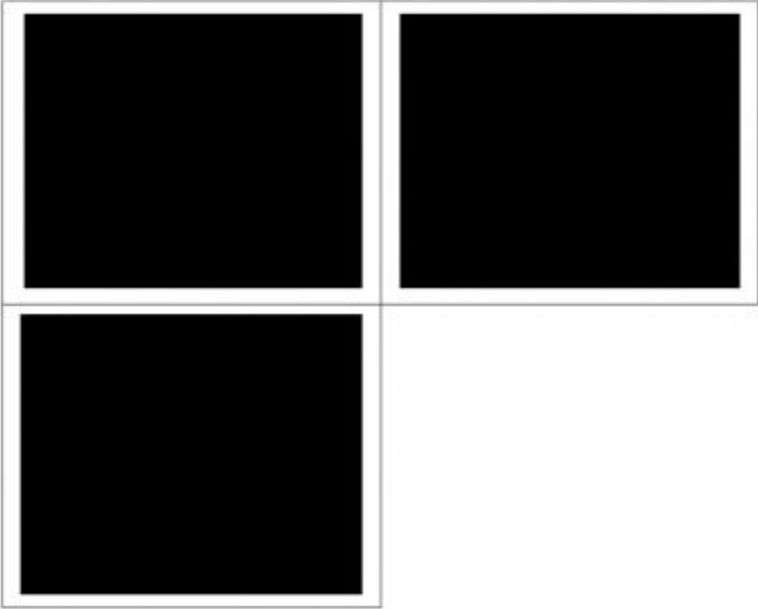
調査区番号	6-1			
区分	小円		N区	S区
調査年月	H26.9月		R6.6月	
方位	E			
傾斜(°)	25			
調査面積	半径6.23mの円		4m×6.23m	
地形	山麓平衝斜面			
低木層の植栽率(%)	20	20	30	30
低木層の優占種	トドマツ	トドマツ	ヤマグワ	エゾイタヤ
草本層の植栽率(%)	100	100	100	90
草本層の優占種	ススキ	ススキ	オニシモツケ	マイヅルソウ
出現種数	31	31	23	20
低木層				
トドマツ	2	2		○
エゾイタヤ	1	1	○	○
ヤマグワ			○	
ツルウメモドキ	+	+		
草本層				
ススキ	4	4	○	○
オオヨモギ	2	2	○	○
アキタブキ	1	2	○	○
ヤマブドウ	2	1	○	○
イワヨモギ	1	1		○
エゾイタヤ	1	1	○	○
スゲ属の一種①	1	1		○
スゲ属の一種②	1	1		○
ツルウメモドキ	1	1		○
ハンゴンソウ	1	1	○	○
エゾゴマナ	1			
オオイトドリ	+	1		○
オオバセンキュウ		1	○	
オククルマムグラ	1			
トクサ	1	+		○
ミヤマカタタビ		1	○	○
チョウセンゴボシ	+	+	○	○
ツタウルシ	+	+	○	○
マイヅルソウ	+	+	○	○
アキカラマツ	+	+	○	
エゾヒヨウタンボク	+	+	○	
オニシモツケ	+	+	○	
サイハイラン	+	+	○	
サルナシ	+	+	○	
ゼンテイカ	+	+	○	
アザミ属の一種		+	○	
クサフジ	+	+		
クルマバソウ	+		○	
ツリガネニンジン	+	+		
トドマツ			○	○
ルイヨウショウマ	+	+		
アマニユウ	+			
ウシノケグサ	+			
ギョウジャニンニク				○
セリ科の一種				○
チシマザサ				○
ツクバネソウ		+		
ツルシキミ			○	
トガスグリ		+		
ナニワズ			○	
ハリギリ		+		
ヤマグワ			○	39
	+			

6 礼文島生物群集保護林

レブンアツモリソウ群生地 草地部 (プロットNo.6-2)

	H26	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

調査区番号	6-2			
区分	小円		N区	S区
調査年月	H26.9月		R6.6月	
方位	S			
傾斜(°)	18			
調査面積	半径6.23mの円		4m×6.23m	
地形	山腹平衡斜面			
草本層の被被率(%)	90	80	90	80
草本層の優占種	イブキジャコウソウ	イブキジャコウソウ	チシマザサ	ハイネズ
出現種数	37	32	22	21
草本層				
イブキジャコウソウ	3	2		○
ウシノケグサ	2	2	○	○
ハイネズ	2	2	○	○
スゲ属の一種	2	2		○
オトコヨモギ	2	1	○	○
ツリガネニンジン	2	1	○	○
テンキグサ	1	2	○	○
エゾカワラナデシコ	1	1	○	○
ヤマブドウ	1	1	○	○
トクサ	1	1		○
ヒメイズイ	1	1		○
トウゲブキ	2	+		
エゾノカワラマツバ	+	1	○	○
コウゾリナ	1	+	○	○
スギナ	+	1	○	○
ネムロシオガマ	1	+	○	○
ハマエンドウ	+	1	○	○
イワヨモギ	1	+	○	
ハマナス	+	1		○
ホタルサイコ	1	+	○	
オオハナウド		1	○	
レブンイワレンゲ	1	+		
カラフトニンジン	1			
キタノコギリソウ	1			
ススキ	1			
ヒロハウラジロヨモギ	+	+	○	
スズメノヤリ		+		○
ハナイカリ	+	+		
ハマボウフウ	+	+		
ヒロハクサフジ	+	+		
ミヤマアキノキリンソウ		+		○
ヤマハギ	+	+		○
リシリビャクシン			○	○
エゾコゴメグサ	+			
オオカサモチ	+			
キジムシロ	+			
コウボウシバ				○
コマユミ		+		
チシマザサ			○	
チシマフウロ			○	
キク科の一種			○	
ニッコウシダ	+			
ノコギリソウ属の一種			○	
ハクサンチドリ		+		
ハチジョウナ	+			
ハマオトコヨモギ	+			
ハマハタザオ		+		
マイヅルソウ			○	
マルバトウキ	+			
ミヤマビャクシン	+			



・出現種はやや減少したが、草地環境は過年度調査時と比較して大きな変化はみられなかった。

・プロット2では、過年度調査時に大円部で24個体確認された[REDACTED]は、プロット内では確認されなかったが、周辺で2箇所26個体が確認された。

6 礼文島生物群集保護林

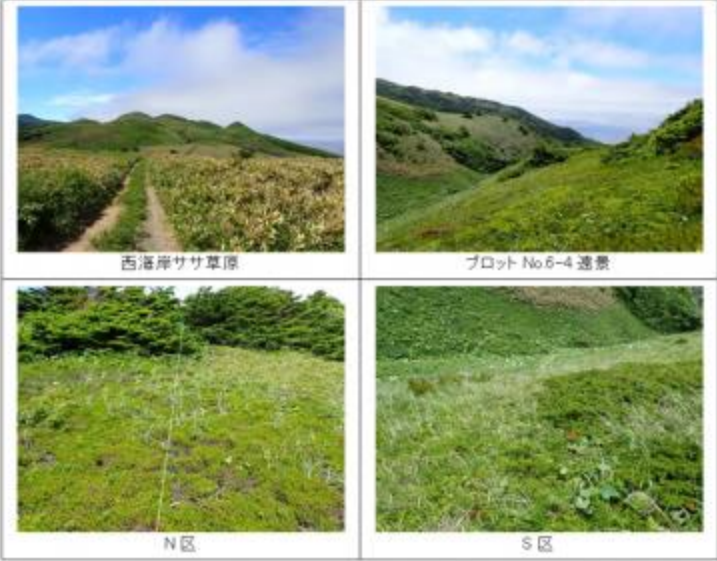
実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)

西海岸の植物群落 ダケカンバ低木林 (プロットNo.6-3)

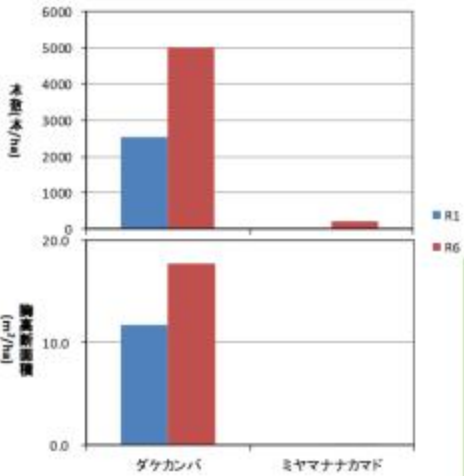
	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

草地 (プロットNo.6-4)



調査区番号	6-4			
区分	小円		N区	S区
調査年月	R1 6月		R6 6月	
方位	SE			
傾斜 (°)	22			
調査面積	半径6.23mの円		4m×6.23m	
地形	山部地積面			
低木層の植被率 (%)	10	30	0	0
低木層の優占種	トドマツ	トドマツ	-	-
草本層の植被率 (%)	100	90	90	90
草本層の優占種	ガンコウラン	ガンコウラン	ガンコウラン	イワノガリヤス

出現種数	25	18	9	14
低木層				
トドマツ	2	2		
ダケカンバ	1	1		
草本層				
ガンコウラン	3	3	○	○
ハイスツゲ	2	2	○	○
イワノガリヤス	1	2	○	○
トドマツ	2		○	
コケモモ	1	+	○	○
スゲ属の一種	1			
ススキ	1			
ダケカンバ	1	+	○	
チシマフレモコウ	+	1	○	○
ツリガネニンジン	1	+	+	○
トウゲブキ	+	1	○	○
ハイマツ	1	+	○	○
ミヤマビャクシン	1			
リシビャクシン	1			○
アスヒカズラ	+			
エゾノヨロイグサ	+			
オオイトドリ	+			
オオタカネイバラ	+	+		
オオバセンキウ	+	+		○
スゲ属の一種①		+		
スゲ属の一種②		+		
チシマフウロ	+	+		○
ハインズ				○
ヒロハシラネニンジン	+			
ミヤマアキノキリンソウ	+	+		○
ミヤマナカマド	+	+		
ミヤママタビ	+	+		
ヤマハハコ	+			○



・ダケカンバ低木林では、状況は変化しておらず、胸高断面積の増加がみられた。
・草地群落では、出現種はやや減少したが、ガンコウランが優占する状況に変化はなく、林床は過年度調査時と比較して大きな変化はみられなかった。

6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

ハイマツ帯 (プロットNo.6-5)

	南	北	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
南方向	写真なし		-
西方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

調査区番号	6-5
区分	小円 N区 S区
調査年月	R6.8月
方位	NW
傾斜(°)	28
調査面積	半径4.23mの円 4m X 6.23m
地形	山麓平衡斜面
草本層の被覆率(%)	100 100 100
草本層の優占種	チシマザサ チシマザサ チシマザサ

出現種数	11	6	5
草本層			
ハイマツ	4	○	○
チシマザサ	4	○	○
トドマツ	1		
オオバノキ	1	○	○
ツルツゲ	1	○	○
イチヤクソウ属の一種	+		
ザゼンソウ	+		
ダケカンバ	+	○	
ツツジ科の一種	+		
ホソバトウゲシバ	+	○	○

・ハイマツ帯では大きな変化はみられなかった。

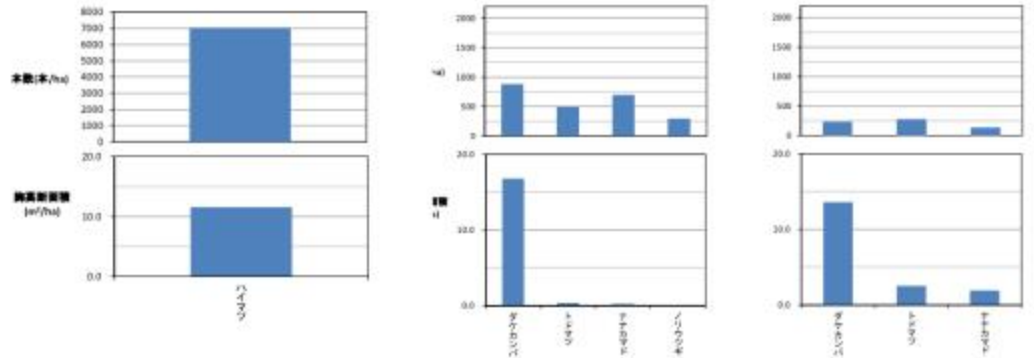
・森林生態系調査の1地点はハイマツ低木林、2地点はダケカンバの優占する落葉広葉樹林である。比較的健全な林分であり、大きな変化はみられなかった。

森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

ID9011830

ID9011831

ID9011832



ID	優占種	発達段階		高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報等
				高さ(m)	被覆率	高さ(m)	被覆率		
9011830	ハイマツ(低木)	天然更新	成熟	-	0%	-	0%	なし	なし
9011830	ダケカンバ	天然更新	成熟	8 ~ 13	60%	2 ~ 4	10%	なし	なし
9011830	ダケカンバ	天然更新	老齢	8 ~ 14	30%	4 ~ 8	20%	なし	なし

6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

保護林調査 結果一覧

保護林名		礼文島生物群集保護林				
プロットNo.	8-1	8-2	8-3	8-4	8-5	
調査日	2019/8/4	2024/6/18	2019/8/4	2024/8/19	2019/8/25	2024/8/20
標高	90m	80m	190m	130m	299m	
斜面方位、傾斜/平地	E 25°	S 18°	NW 20°	SE 22°	NW 28°	
位置情報	山腹平癒斜面		山腹平癒斜面	山腹平癒斜面	山腹平癒斜面	
林分状況	【主】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【主】樹高	5~8m	6~10m	2~6m	2~6m	1~1.5m
	【主】樹冠率	30%	30%	80%	10%	50%
	【主】樹径	15~29cm	12~33cm	3~14cm	4~10cm	1~4cm
	【主】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【主】樹高	2~5m	2~5m	2~6m	2.3m	2.5m
	【主】樹冠率	20%	20%	80%	10%	30%
	【主】樹径	1~5cm	1~4cm	3~14cm	4~10cm	1~4cm
	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	樹高	8.0m	10.4m	6.2m	2.3m	3.0m
鳥獣害状況	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	直径	29.6cm	32.9cm	14.6cm	8.9cm	3.9cm
	気象害	-	-	-	-	-
	気象害	-	-	-	-	-
	気象害のコメント	-	-	-	-	-
	エゾシカ痕跡	-	-	-	-	-
	その他痕跡	-	-	-	-	-
	痕跡の程度	-	-	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-	-	-
	気象害	-	-	-	-	-
林床植生	優占する植物種	ススキ、オオヨモギ	ススキ、マイヅルソウ	イボキジャコウソウ、トウゲツキ	イボキジャコウソウ	記載なし
	樹冠率	100%	100%	90%	100%	記載なし
	樹高	-	0.1~2.0m	-	0.1~0.5m	記載なし
	天然更新状況	普通	普通	普通	普通	普通
保護林の状況		-				
林分等の状況		-				
評価・課題等確認された影響		-				
ア 野生鳥獣、イ 害虫害、ウ 気象害、エ 盗掘、オ 自然環境、カ その他		-				
評価・課題等確認された影響		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				
引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う		-				



保護林の外観(プロット No. 8-1 周辺)



保護林の外観(プロット No. 8-2 周辺)



保護林の外観(プロット No. 8-3 周辺)



保護林の外観(プロット No. 8-4 周辺)



カラフトゲンゲ

確認された影響[その他]

- ・樹林部、草原部ともに大きな変化や森林被害もなく、到達経路上においても高山植物が多く確認され、自然環境としてはおおむね良好な状態を保っているといえる。
- ・痕跡は古いですが、[不明]の盗掘跡と見られる痕跡が確認されたことから、引き続き関係機関と連携しながら巡視を実施していく。気象害についても注視していく。

3. モニタリング調査結果報告

3-3.希少個体群保護林（31箇所）

3-3.希少個体群保護林（1/5）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
7	30111	天狗岳高山植物希少個体群保護林 (177.45ha)	定山溪天狗岳に自生する高山植物	R2	・森林概況調査 (2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。 ・立木および高山植物の生育状態は健全であり、林分として良好な状態を保っていた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
8	30112	漁入ハイデ風穴植生希少個体群保護林 (13.71ha)	定山溪の風穴植生地に自生するハイマツやイソツツジなど	R1	・森林詳細調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はなく、健全な林分であった。 ・カラフトイソツツジ、リンネソウ等の生育が確認され、風穴周辺に特徴的な植生状況もおおむね良好であった。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
9	30201	峠山高山植物希少個体群保護林 (164.93ha)	峠山の石灰岩礫地に自生する地域固有の希少な高山植物	R1	・森林詳細調査 (2箇所)	・プロット1では天然更新も確認され、比較的健全な林分であった。林床ではクマイザサの一斉枯死がみられた。 ・プロット2では立木は健全であったが、天然更新はやや少ない。 ・本調査において確認された高山植物は健全な状態であった。	5年	確認された影響[特になし] ・今後も入山制限を続けることにより盗掘等を防ぎ、巡視等によりエゾシカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングにより高山植物等の生育状況を注視していく。
10	30202	月形スギ希少個体群保護林 (2.12ha)	明治23(1890)年に植栽されたスギ	R1	・森林詳細調査 (2箇所)	・スギの天然更新はないが、立木は比較的健全な林分であった。 ・ネズミの食害も確認されたが、ネット等により保護されている。	10年	確認された影響[野生鳥獣] 数個体について、ネズミの食害による枯死があるが、根本にネットを巻き付ける対策が取られていた。 ・隣地で、スギの遺伝資源を絶やさないための植林がなされている。
11	30203	三笠チョウセンカラマツ希少個体群保護林 (0.81ha)	大正5(1916)年に植栽されたチョウセンカラマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。	10年	確認された影響[特になし] ・チョウセンカラマツの天然更新はみられず、主にアカイタヤの天然更新がみられ、今後は落葉広葉樹林に遷移していくことが考えられる。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
12	30204	ボンクルキ地区ミズナラ希少個体群保護林 (1.00ha)	ミズナラ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。	10年	確認された影響[野生鳥獣] ・プロットおよびその周辺にミズナラは少なく、天然更新もみられなかった。また、エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。

7 天狗岳高山植物希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)

保護林森林概況調査 総括

保護林名	天狗岳高山植物希少個体群保護林			
プロットNo	7-1		7-2	
日付	2011-1		2011-1	
調査日	2020/6/11		2024/6/6	
標高	1030m		790m	
プロット情報	W 33°		SW 16°	
基所地形	山腹斜面		山腹斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	オシロウ
	【高】樹高	8~17m	8~17m	12~27m
	【高】樹種率	-	70%	80%
	【高】DBH	25~75cm	25~75cm	25~75cm
	【中】主要構成樹種	シヤマハシノキ	シヤマハシノキ	アカイタヤ
	【中】樹高	5~7m	4~7m	6~14m
	【中】樹種率	-	10%	40%
	【中】DBH	7~12cm	4~12cm	7~25cm
	【低】主要構成樹種	エゾスグリ	シナヅクラ	アカイタヤ、ハウチワカエデ
	【低】樹高	1~2m	1~2m	1.5~5m
鳥獣被害	【低】樹種率	-	1%	20%
	【低】DBH	1cm未満	0.5~1cm	1~6cm
	最大樹高樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ヤチダモ
	樹高	17m	17m	27m
	最大直径樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	オシロウ
	直径	76cm	76cm	75cm
	保護対象種の生息状況	-	-	-
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
林況調査	エゾシカ被害	-	-	-
	その他被害	-	-	-
	被害の程度	-	-	-
林況調査	被害のコメント	-	-	-
	優占する植物種	ヒメノガリヤス	タカキノガリヤス	アキタツキ
	樹種率	60%	60%	100%
保護林の状況	樹高	-	0.1~0.6m	-
	天然更新状況	-	なし	普通
	シラネアオイ、ヤマブキ、シロツメ、サクラソウモドキ、ホタルサイコなど高山植物の生育状況	アカイタヤの枯死木が本確認されたほかには大きな変化はなかった。プロット内にサクラソウモドキの健全個体を確認。林分は健全な状態である。	オシロウやヤチダモを主体とする広葉樹林であり、林床はサシマザサ、ジュウモンジシダ、ムラゴイタサなどが生育する。	オシロウやヤチダモを主体とした混交林であり、天然更新も認められている。林床はサシマザサ、ジュウモンジシダ等の高山植物を確認。林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	ア 野生鳥獣 イ 気象害 ウ 外来種 エ 盗伐化 オ 自然環境法 カ その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

プロットNo.7-1

R2	R0	比較観察等
		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。
写真なし		-

プロットNo.7-2

R2	R0	比較観察等
		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。
写真なし		-

確認された影響[特になし]

- ・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。
- ・立木および高山植物の生育状態は健全であり、林分として良好な状態を保っていた。
- ・更新状況を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



低木層の状況(プロット No. 1)



サクラソウモドキ(プロット No. 1)



亜高木層の状況(プロット No. 2)



8 漁入(いざりいり)ハイデ風穴植生希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林詳細調査(2箇所)



プロットNo.8-1

	R1	R2	比較結果等
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向			写真なし
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向			写真なし
平面			大きな変化はない。

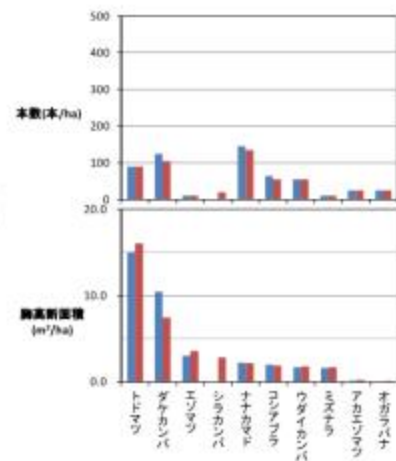
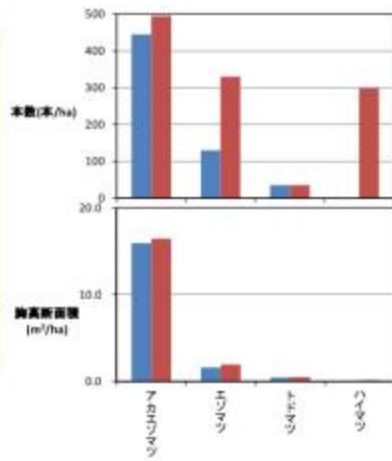
プロットNo.8-2

	R1	R2	比較結果等
縦断方向			立木に大きな変化はないが、ササが一斉に枯れている。
縦断方向			写真なし
縦断方向			立木に大きな変化はないが、ササが一斉に枯れている。
縦断方向			写真なし
平面			立木に大きな変化はないが、ササが一斉に枯れている。

保護林森林詳細調査 総括

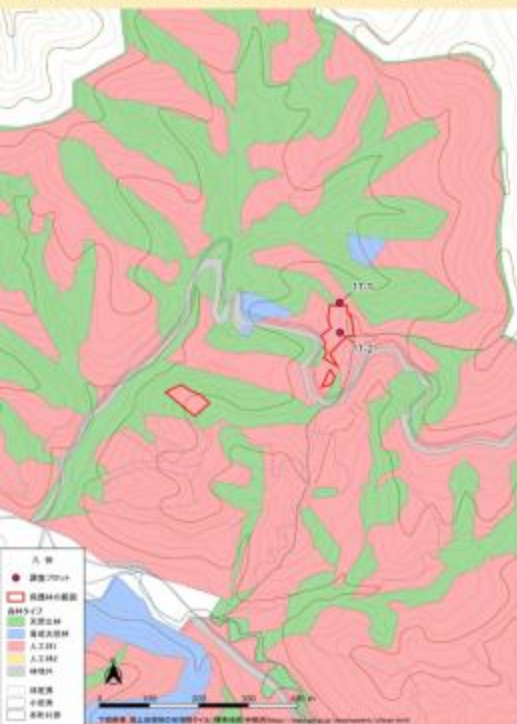
保護林名	漁入ハイデ風穴植生希少個体群保護林			
保護対象種	-			
プロットNo.	8-1		8-2	
調査日	2018/10/10		2024/5/7	
標高	226m		257m	
プロット情報	調査方法: 複相平均 調査地: 1号 山形平野国		NE 10° 平均傾斜	
林分状況	【高】主幹樹高	アカエノマツ 13~27m	アカエノマツ 13~28m	トドマツ 18~25m
	【高】樹高	-	-	-
	【高】樹高	22~55cm	22~57cm	23~64cm
	【高】主幹樹高	アカエノマツ 7~12m	アカエノマツ 7~13m	ナナカマド 8~15m
	【高】樹高	-	-	-
	【高】樹高	9~18cm	9~20cm	10~24cm
	【高】主幹樹高	アカエノマツ 2~5m	アカエノマツ 1~5m	アカエノマツ 4~5m
	【高】樹高	-	-	-
	【高】樹高	1~4cm	1~7cm	4~10cm
	【高】主幹樹高	アカエノマツ 26.5m	アカエノマツ 28.0m	ダケカンパ 26.6m
鳥獣類痕跡	最大主幹樹高	アカエノマツ 50.1cm	アカエノマツ 57.3cm	トドマツ 65.5cm
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象、病虫害のコメント	-	-	-
	エゾシカ痕跡	-	シカ道、糞、角研	-
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の種類	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-
	痕跡の種類	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-
林床状況	地表の植物種	カラフトイソツツジ	カラフトイソツツジ	ギンマザサ
	樹冠率	90%	90%	100%
	植生	-	-	-
	天然更新状況	-	多い	普通
保護林の状況	アカエノマツの枯死が多く、天然更新状況は良好。シカ道が観察され、今後の更新状況とともに、林床植生の状況に注意が必要である。	-	-	-
	立木の生育状況は良好。林床のギンマザサが枯死しているため、今後の更新状況とともに、林床植生の状況に注意が必要である。	-	-	-
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
評価・課題等確認された影響	ア. 野生鳥獣	イ. 樹木	ウ. 気象	エ. 気象
	エ. 気象	オ. 自然環境	カ. その他	キ. その他
	ク. その他	ク. その他	ク. その他	ク. その他
	ク. その他	ク. その他	ク. その他	ク. その他
	ク. その他	ク. その他	ク. その他	ク. その他

確認された影響[特になし]
 ・林相に大きな変化はなく、健全な林分であった。
 ・カラフトイソツツジ、リンネソウ等の生育が確認され、風穴周辺に特徴的な植生状況もおおむね良好であった。
 ・ササの一斉枯死がみられた。



11 三笠チョウセンカラマツ希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.11-1

	Pl	Pl2	比較結果等
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向			-
縦断方向			大きな変化はない。
縦断方向			-
縦断方向			大きな変化はない。
天照			大きな変化はない。

プロットNo.11-2

	Pl1	Pl2	比較結果等
縦断方向			-
縦断方向			-
縦断方向			-
縦断方向			-
縦断方向			-
天照			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括

保護林名		三笠アウセンカラマツ希少個体群保護林				
保護対象種		アウセンカラマツ				
プロットNo.		11-1		11-2		
調査日		2023/8/20		2024/8/20		
調査者		18名		18名		
保護対象種、種別、平均		NW 24°		SW 26°		
プロット情報		山腹中腹斜面		山腹中腹斜面		
林分状況		【高】主要構成樹種 【高】樹高 【高】樹種率 【高】20m以上 【中】主要構成樹種 【中】樹高 【中】樹種率 【中】20m以上 【低】主要構成樹種 【低】樹高 【低】樹種率 【低】20m以上 最大直径樹種 樹高 最大直径樹種 直径 保護対象種の重要割合 気象害 病虫害 倒伏害、倒伏害のコメント	アウセンカラマツ 20m以上 90% 30m以上 エゾイタヤ 5~10m 30% 10m未満 アカイタヤ 3m 5% 5m アウセンカラマツ 22m アウセンカラマツ 35cm 80%以上 - - -	アウセンカラマツ、アカイタヤ 25~34m 90% 30~44m アカイタヤ 10~18m 30% 8~15m アカイタヤ 3m 5% 5m アウセンカラマツ 22m アウセンカラマツ 43.8cm 20~50% - - -	アウセンカラマツ 20m以上 90% 30m以上 エゾイタヤ 5~10m 30% 10m未満 アカイタヤ 3~5m 10% 4~6m アウセンカラマツ 22m アウセンカラマツ 35cm 80%以上 - - 0	アウセンカラマツ 28~33m 90% 28~45cm アカイタヤ 7~22m 50% 7~25cm アカイタヤ 3~5m 10% 4~6m アウセンカラマツ 32.2m アウセンカラマツ 45.2cm 60%以上 - - -
鳥獣被害状況		エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度 痕跡のコメント	足跡、糞、食痕 - 痕跡 エゾシカのササ食痕わずかにあり	足跡、糞、食痕 - 痕跡 エゾシカのササ食痕わずかにあり	- - 痕跡 エゾシカによる剥皮痕跡わずかにあり	
林床植生		優占する植物種 植生率 植生高 天然更新状況	クマザサ 30% 0.1~1.2m 保護対象種一なし 保護対象種以外一なし	クマザサ 30% 0.1~1.2m 保護対象種一なし 保護対象種以外一なし	クマザサ 30% 0.1~1.6m 保護対象種一なし 保護対象種以外一なし	
保護林の状況		キタコブシ、エゾイタヤ、シタノキ、ミズナラなど広葉樹の発生はみられる。	アウセンカラマツの天然更新は無し。今後広葉樹林に遷移していくと考えられる。	トドマツ、エゾイタヤ、シタノキなどの発生はみられる。今後するトドマツ林に遷移していくと考えられる。	アウセンカラマツの天然更新は無し。今後広葉樹林に遷移していくと考えられる。	
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア 野火鳥獣 イ 病虫害 ウ 伐倒倒伏 エ 気候変動 オ 自然環境 カ その他 特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	



チョウセンカラマツの球果



チョウセンカラマツの高木

確認された影響[特になし]

- ・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。
- ・チョウセンカラマツの天然更新はみられず、主にアカイタヤの天然更新がみられ、今後は落葉広葉樹林に遷移していくことが考えられる。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

12 ポンクルキ地区ミズナラ希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.12-1

	前1	前2	比較結果等
調査方向			大きな変化はない。
調査方向			—
調査方向			大きな変化はない。
調査方向			—
調査方向			大きな変化はない。

プロットNo.12-2

	前1	前2	比較結果等
調査方向			大きな変化はない。
調査方向			—
調査方向			大きな変化はない。
調査方向			—
調査方向			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括

保護林森林概況調査 総括				
ポンクルキ地区ミズナラ希少個体群保護林				
保護林名	ミズナラ			
保護対象種	ミズナラ			
プロットNo.	12-1	12-2	12-3	12-4
日付	2023/4/1	2023/4/1	2023/4/1	2023/4/1
調査日	2023/9/2	2024/6/4	2023/9/2	2024/6/4
プロット情報	300m 5.37	300m 5.17	300m 5.17	300m 5.17
林分状況	【高】主要樹種構成 【高】樹高 【高】樹冠率 【高】DBH 【中】主要樹種構成 【中】樹高 【中】樹冠率 【中】DBH 【低】主要樹種構成 【低】樹高 【低】樹冠率 【低】DBH 【大】主要樹種構成 【大】樹高 【大】樹冠率 【大】DBH 【小】主要樹種構成 【小】樹高 【小】樹冠率 【小】DBH 【大】主要樹種構成 【大】樹高 【大】樹冠率 【大】DBH 【小】主要樹種構成 【小】樹高 【小】樹冠率 【小】DBH	【高】主要樹種構成 【高】樹高 【高】樹冠率 【高】DBH 【中】主要樹種構成 【中】樹高 【中】樹冠率 【中】DBH 【低】主要樹種構成 【低】樹高 【低】樹冠率 【低】DBH 【大】主要樹種構成 【大】樹高 【大】樹冠率 【大】DBH 【小】主要樹種構成 【小】樹高 【小】樹冠率 【小】DBH	【高】主要樹種構成 【高】樹高 【高】樹冠率 【高】DBH 【中】主要樹種構成 【中】樹高 【中】樹冠率 【中】DBH 【低】主要樹種構成 【低】樹高 【低】樹冠率 【低】DBH 【大】主要樹種構成 【大】樹高 【大】樹冠率 【大】DBH 【小】主要樹種構成 【小】樹高 【小】樹冠率 【小】DBH	【高】主要樹種構成 【高】樹高 【高】樹冠率 【高】DBH 【中】主要樹種構成 【中】樹高 【中】樹冠率 【中】DBH 【低】主要樹種構成 【低】樹高 【低】樹冠率 【低】DBH 【大】主要樹種構成 【大】樹高 【大】樹冠率 【大】DBH 【小】主要樹種構成 【小】樹高 【小】樹冠率 【小】DBH
鳥獣被害状況	エゾシカ被害 その被害状況 被害の程度 被害のコメント	エゾシカ被害 その被害状況 被害の程度 被害のコメント	エゾシカ被害 その被害状況 被害の程度 被害のコメント	エゾシカ被害 その被害状況 被害の程度 被害のコメント
林床植生	優勢な植物種 種多様性 種多様性 天然更新状況	クマザサ クマザサ クマザサ クマザサ	クマザサ クマザサ クマザサ クマザサ	クマザサ クマザサ クマザサ クマザサ
保護林の状況	ミズナラが減少し、風倒木が増えている。	ミズナラが減少し、風倒木が増えている。	ミズナラが減少し、風倒木が増えている。	ミズナラが減少し、風倒木が増えている。
林分等の状況	大きな変化は認められない。	エゾシカの影響あり	エゾシカの影響あり	エゾシカの影響あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響【ア】 エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。	確認された影響【イ】 エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。	確認された影響【ウ】 エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。	確認された影響【エ】 エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。



ミズナラの風倒木



ミズナラの高木

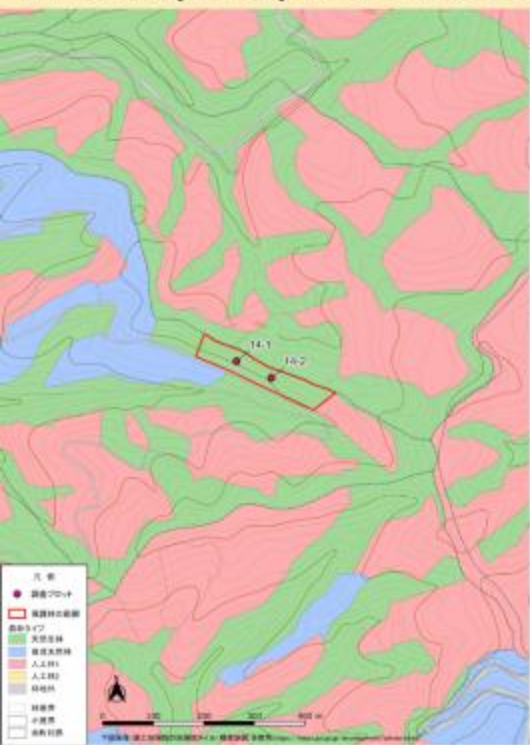
確認された影響[野生鳥獣、自然撓乱]
・前回調査から林相に大きな変化はみられなかったが、プロット及びその周辺にミズナラは少なく、天然更新もみられなかった。
・エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。

3-3.希少個体群保護林（2/5）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
13	30205	紅葉山ケヤマハンノキ希少個体群保護林 (14.57ha)	ケヤマハンノキ	R1	・森林詳細調査 (2箇所)	・プロット1では、ケヤマハンノキは確認されなかったが、立木は健全な林分であった。 ・プロット2では、ケヤマハンノキは数個体確認されたが、今後遷移が進み消失する可能性が高い。林分としては健全な状態であった。	10年	確認された影響[その他] ・遷移が進んでいるため、保護対象であるケヤマハンノキは消失する可能性が高い。 ・林分としてはおおむね良好だが、今後保護対象が消失する可能性があるために、今後の取扱いを検討する必要がある。
14	30206	築穂ミズナラ希少個体群保護林 (1.00ha)	ミズナラ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・ミズナラは老齢木が多く立木は健全であったが、天然更新はみられなかった。 ・風倒木がやや確認された。	10年	確認された影響[自然攪乱] ・引き続きモニタリングによりミズナラの天然更新等の経過観察を行う。
15	30207	奥主タチヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林 (18.75ha)	ヤチダモ、キハダ、オニグルミ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・ヤチダモは大木が多く、天然更新も多くみられた。 ・キハダ、オニグルミの生育も健全であり、林分として非常に良好な状態を保っていた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
16	30208	南部エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (7.78ha)	エゾマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・エゾマツは大木が多く、立木の生育状態は健全であった。 ・天然更新はやや少数であった。 ・一部に、エゾシカによる下層植生の食害、風倒木がみられるものの、影響は少なく林分としては良好な状態を保っていた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
17	30209	紅葉山イチイ等遺伝資源希少個体群保護林 (10.13ha)	イチイ、ホオノキ	R1	・資料調査 ・森林詳細調査 (2箇所) ・森林生態系多様性基礎調査 (1箇所)	・プロット1では林況に大きな変化はなく健全な状態であった。 ・プロット2では、保護対象種のイチイは確認されずホオノキは少なかった。立木は健全な状態であったが、風倒木がやや多かった。 ・林床にはシカの食痕が多く確認された。	10年	確認された影響[野生鳥獣] ・保護対象種が消失する可能性があるために、今後の取扱いを検討する必要がある。 ・風倒木が多く確認されたことから、巡視等により気象害等を注視しつつ、更新の経過観察を行う。

14 築穂(ちくほ)ミズナラ希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.14-1			プロットNo.14-2		
方位	写真	比較結果等	方位	写真	比較結果等
北		大きな変化はない。	北		大きな変化はない。
東		等しい。	東		等しい。
南		大きな変化はない。	南		大きな変化はない。
西		等しい。	西		等しい。
天頂		大きな変化はない。	天頂		大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括				
調査ミズナラ希少個体群保護林				
保護林名	ミズナラ			
調査箇所	14-1	14-2	14-3	14-4
調査日	2019/8/21	2024/9/14	2019/8/21	2024/9/14
調査員	373m	373m	373m	373m
調査方法	SE 22°	SE 22°	SE 19°	SE 19°
調査範囲	山腹斜面	山腹斜面	山腹斜面	山腹斜面
林分状況	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
【高】主要構成樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
【高】樹高	20m以上	15~25m	20m以上	15~25m
【高】樹種率	60%	60%	70%	70%
【高】DBH	30cm以上	17~20cm	30cm以上	18~20cm
【中】主要構成樹種	エゾイタヤ	アカイタヤ、トドマツ	トドマツ	トドマツ、アカイタヤ
【中】樹高	5~10m	5~15m	5~10m	5~10m
【中】樹種率	50%	50%	30%	30%
【中】DBH	10~20cm	12~25cm	10cm未満	10~20cm
【低】主要構成樹種	トドマツ	ハナヅカエデ、トドマツ	ダケカンバ、エゾイタヤ	トドマツ、ハナヅカエデ
【低】樹高	1~5m	2~5m	1~5m	2~5m
【低】樹種率	30%	30%	30%	30%
【低】DBH	5~10cm	1~8cm	5cm未満	1~8cm
最大樹高樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
樹高	23m	23m	23m	23m
最大直径樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
直径	70cm	72cm	61cm	61cm
保護対象種の生息割合	50%以上	50~90%	50~80%	50~80%
気象害	風害(小)	風害(中)	風害(中)	風害(微)
倒伏害	倒伏害	倒伏害	倒伏害	倒伏害
気象害、倒伏害のコメント	電線上に倒伏木あり	風倒木やや多い	風倒木やや多い	風倒木わずかにあり
鳥獣類被害	エゾシカ、鹿、クマ、クマザル	シカ、鹿、クマ、クマザル	シカ、鹿、クマ、クマザル	シカ、鹿、クマ、クマザル
被害の程度	被害あり	被害あり	被害あり	被害あり
被害のコメント	クマザル食痕、倒伏木あり	クマザル食痕あり	エゾシカのワサ食痕あり	エゾシカのワサ食痕あり
林床種生	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ
種生率	70%	70%	70%	70%
樹高	0.5~1.5m	0.5~1.5m	0.5~1.5m	0.5~1.5m
天然更新状況	保護対象種一なし	保護対象種一なし	保護対象種一なし	保護対象種一なし
保護対象種以外一少ない	保護対象種以外一少ない	保護対象種以外一少ない	保護対象種以外一少ない	保護対象種以外一少ない
保護林の状況	尾根上の後地森林である。下流に隣接するミズナラ林は官営林である。	老齢林であり、風倒木がやや目立つ。ミズナラの天然更新はみられないが、立木の生育状況は良好である。	ミズナラが密生しており、ミズナラの天然更新は少ない。全体に風倒木がみられる。	ミズナラが密生しており、ミズナラの天然更新は少ない。全体に風倒木がみられる。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響【オ】	確認された影響【オ】	確認された影響【オ】	確認された影響【オ】
ア 野生鳥獣 イ 気象害 ウ 火災	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
エ 盗伐 オ 自然攪乱 カ その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

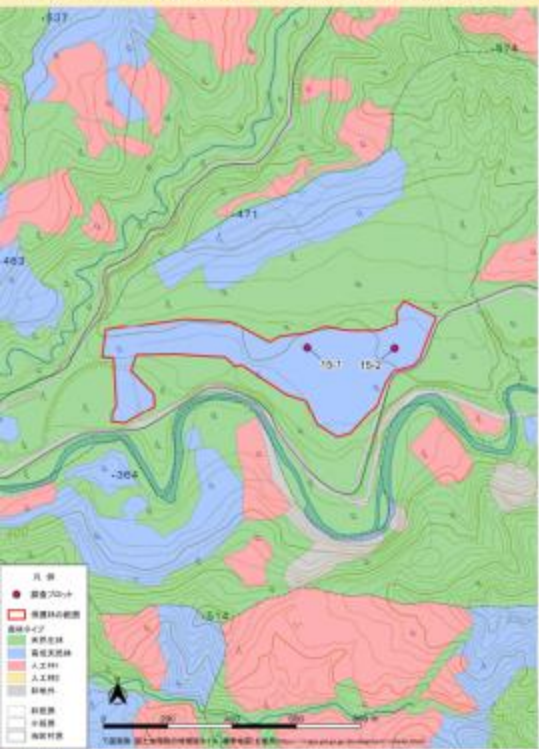


確認された影響[自然攪乱]

- ・ミズナラは老齢木が多く立木は健全であったが、天然更新はみられなかった。
- ・風倒木がやや確認された。
- ・天然更新及び気象害について、引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

15 奥主(おくしゅ)夕張ヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.15-1

調査方向	写真		比較結果
	前	後	
縦向き			大きな変化はない。
横向き			等変なし
縦向き			大きな変化はない。
横向き			等変なし
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.15-2

調査方向	写真		比較結果
	前	後	
縦向き			大きな変化はない。
横向き			等変なし
縦向き			大きな変化はない。
横向き			等変なし
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括

保護林森林概況調査 総括				
奥主夕張ヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種	ヤチダモ、キハダ、オニグルミ			
プロットNo.	15-1	15-1	15-1	15-1
調査日	2019/8/20	2024/7/12	2019/8/20	2024/7/12
標高	400m	400m	400m	400m
プロット情報	調査方法、植生状況	W 2'	W 2'	W 1'
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ	ヤチダモ、キハダ、オニグルミ	ヤチダモ、キハダ
	【高】樹高	20m以上	28~37m	20m以上
	【高】樹冠率	90%	90%	90%
	【高】DBH	30cm以上	28~63cm	30cm以上
	【中】主要構成樹種	クヤマハンノキ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
	【中】樹高	10m以上	15~20m	10~12m
	【中】樹冠率	20%	20%	5%
	【中】DBH	10~20cm	18~20cm	10~14cm
	【低】主要構成樹種	ホノノキ	-	-
	【低】樹高	1~5m	-	-
鳥獣採伐跡	最大樹高	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
	樹高	28m	38.8m	38.7m
	最大直径	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
	直径	60cm	82.8cm	68.1cm
	保護対象種の主要樹種	80%以上	50~80%	50~80%
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
	エゾシカ採跡	シカ道、足跡、角跡	-	足跡、糞痕
	その他採跡	-	-	-
林分植生	採跡の程度	微	微	微
	採跡のコメント	-	-	-
	優占する植物種	クマヤザサ	クマヤザサ	クマヤザサ
	樹高	100%	100%	100%
	樹高	1.5m以上	1.5~2.1m	1.5m以上
	樹高	1.5m以上	1.5~2.1m	1.5m以上
	天然更新状況	保護対象種一歩少ない	保護対象種一歩多い	保護対象種一歩少ない
	天然更新状況	保護対象種一歩少ない	保護対象種一歩多い	保護対象種一歩少ない
	保護対象種一歩少ない	保護対象種一歩多い	保護対象種一歩少ない	保護対象種一歩少ない
	保護対象種一歩少ない	保護対象種一歩多い	保護対象種一歩少ない	保護対象種一歩少ない
保護林の状況	プロット内には水跡あり、ササが密生し天然更新は少ない。	ヤチダモが密生し、キハダ、オニグルミが密生するが、天然更新は多量認められ、林分は健全な状態である。	ヤチダモは多い、キハダはほとんどない。	ヤチダモの苗木がみられる。林分のクマヤザサは枯死しており、ヤチダモは広葉樹の密生がみられる。林分は健全な状態である。
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う
	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う
	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う
	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う
	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う
	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う
	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う

確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・ヤチダモは高木が多く、天然更新も多くみられた。
- ・キハダ、オニグルミの生育も健全であり、林分として非常に良好な状態を保っていた。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



ヤチダモの高木



キハダの高木



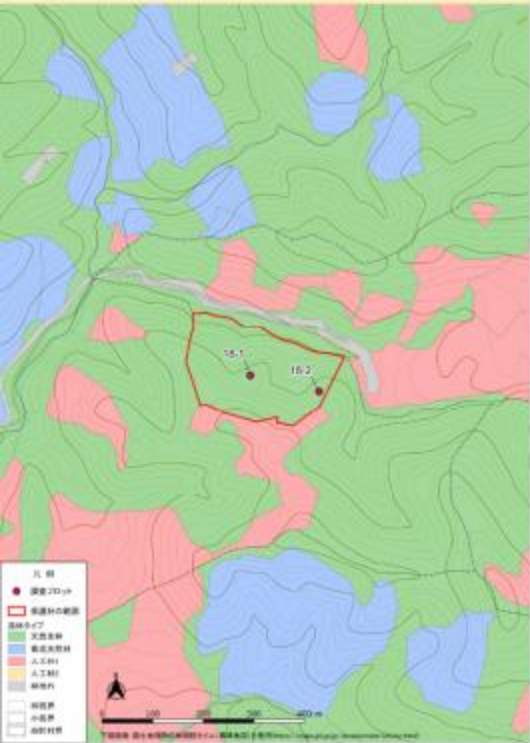
ヤチダモの苗木

3-3.希少個体群保護林（3/5）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
18	30210	紅葉山シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (4.79ha)	シロエゾマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。 ・シロエゾマツは主に倒木上に天然更新がみられ立木の生育状態も健全であった。 ・エゾシカの痕跡がややみられ、軽微な風倒は確認されたが、影響は少ないと考えられた。	10年	確認された影響[特になし] ・気象害等を注視つつ、引き続きモニタリング等により経過を観察していく。
19	30211	落辺アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (17.78ha)	アカエゾマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
20	30212	落辺トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (15.11ha)	トドマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新も多くみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
21	30213	落辺シラカンバ遺伝資源希少個体群保護林 (4.35ha)	シラカンバ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・先駆樹種であるシラカンバの天然更新は少ないがギャップにわずかに低木がみられた。 ・そのほかの広葉樹の生育状況は健全であり、林分としては良好な状態を保っていた。 ・プロット2では、遷移が進みシラカンバは減少していくと考えられる。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
22	30214	頼城ヤチハンノキ遺伝資源希少個体群保護林 (4.96ha)	ヤチハンノキ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。 ・ハムシによる食害が一部の葉で確認されたが軽微なものであった。	10年	確認された影響[病虫害] ・病虫害等に留意し、引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
23	30215	咲別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林 (11.79ha)	オオバボダイジュ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
24	30216	惣芦別ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林 (11.74ha)	ミズナラ、シナノキ、オヒョウ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・ミズナラ、シナノキ、オヒョウの立木の生育状態は健全であった。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

18 紅葉山シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



シロエゾマツの実生

プロットNo.18-1			プロットNo.18-2		
H1	H2	比較結果	H20	H0	比較結果
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		—	写真なし		—
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		—	写真なし		—
		大きな変化はない。			大きな変化はない。



シロエゾマツの高木

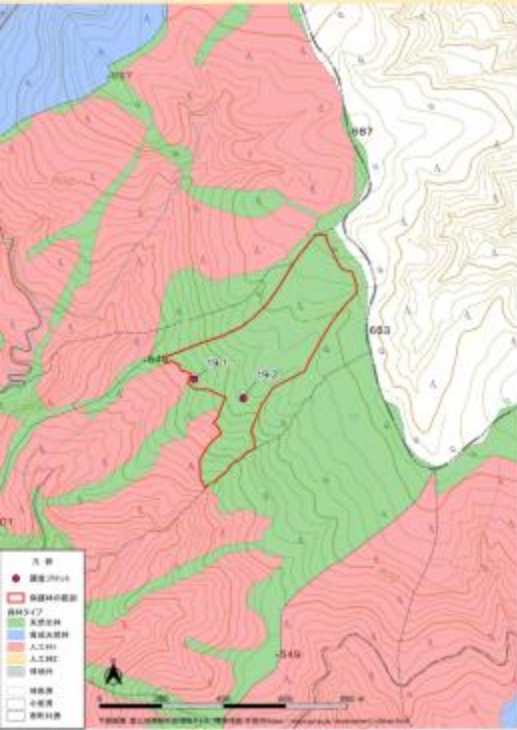
保護林森林概況調査 総括				
紅葉山シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林				
保護林名	シロエゾマツ			
保護対象種	シロエゾマツ		シロエゾマツ	
プロットNo.	18-1	18-2	18-1	18-2
旧No.	20210-1	20210-2	20210-1	20210-2
調査日	2019.8.21	2024.8.12	2019.8.21	2024.8.12
標高	230m	300m	230m	300m
方位	N 33°	N 40°	N 33°	N 40°
プロット情報	山頂平野部		山頂平野部	
林分状況	【主】主要構成樹種	エゾマツ	エゾマツ、トドマツ	エゾマツ、トドマツ
	【高】樹高	20m以上	18~28m	20m以上
	【高】樹冠率	—	80%	80%
	【高】DBH	30cm以上	20~45cm	30cm以上
	【主】主要構成樹種	アカマツ、トドマツ	アカマツ、トドマツ	アカマツ、トドマツ
	【高】樹高	10m以上	8~18m	5~17m
	【高】樹冠率	—	40%	30%
	【高】DBH	10~20cm	6~14cm	10~20cm
	【主】主要構成樹種	トドマツ	ヤマモミジ、トドマツ	トドマツ
	【高】樹高	1~5m	2~8m	1~5m
鳥獣害状況	【高】樹冠率	—	30%	20%
	【高】DBH	5cm未満	1~5cm	1~4cm
	最大樹高	シナノキ	シナノキ	エゾマツ
	最大直径	シナノキ	シナノキ	エゾマツ
	直径	50cm	40cm	50cm
	保護対象種の更新割合	30~40%	30~50%	30~50%
	気象害	風害(微)	風害(微)	風害(微)
	鳥獣害	—	—	—
	伐倒率	—	—	—
	伐倒率のコメント	風倒はトドマツが多い	—	—
林況種生	エゾシカ痕跡	痕跡	シカ道、足跡、糞、糞	シカ道、足跡、糞、糞
	その他の痕跡	痕跡	痕跡	痕跡
	痕跡の程度	中	小	中
	痕跡のコメント	エゾシカのシダ食痕跡	エゾシカ痕跡1箇所	—
	更新する種	クマイザサ、フキソウ	クマイザサ、ササノハスグサ	クマイザサ、ササノハスグサ
	樹高	10m未満	0.1~0.8m	0.1~0.8m
	樹冠率	—	0.1~0.8m	0.1~0.8m
	天然更新状況	保護対象種→少ない	保護対象種→少ない	保護対象種→少ない
	保護対象種以外→少ない	保護対象種以外→少ない	保護対象種以外→少ない	保護対象種以外→少ない
	保護対象種以外→多い	保護対象種以外→多い	保護対象種以外→多い	保護対象種以外→多い
保護林の状況	シロエゾマツと思われる個体は樹冠上に多い。	シロエゾマツと思われる個体は樹冠上に多い。	シロエゾマツと思われる個体は樹冠上に多い。	シロエゾマツと思われる個体は樹冠上に多い。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。	シロエゾマツの生育状態は良好である。
林分別の状況	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
評価・課題等確認された影響	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]
	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]	確認された影響[特になし]

確認された影響[特になし]

- ・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。
- ・シロエゾマツは主に倒木上に天然更新がみられ、立木の生育状態も健全であった。
- ・エゾシカの痕跡がややみられ、軽微な風倒は確認されたが、影響は少ないと考えられた。
- ・気象害等を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

19 落辺(おちのんべ)アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林概況調査(2箇所)
----------	----------------



プロットNo.19-1			プロットNo.19-2		
写真1	写真2	比較前後写真	写真1	写真2	比較前後写真
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括				
落辺アカエゾマツ希少個体群保護林				
アカエゾマツ				
保護林名	19-1		19-2	
保護対象種	アカエゾマツ		アカエゾマツ	
プロットNo.	30211-1		30211-2	
調査日	2019/9/3	2024/8/26	2019/9/3	2024/8/26
調査員	574m		827m	
プロット情報	調査方法: 植樹(平均)		SW 20'	
	山腹平衝断面		山腹平衝断面	
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	【高】樹高	20m以上	24~27m	20~23m
	【高】樹冠率	60%	60%	60%
	【高】DBH	30cm以上	42~81cm	30cm以上
	【主】主要構成樹種	アカエゾマツ	キタコブシ	ナナカマド、シラカシバ
	【主】樹高	15m以上	10~12m	10m以上
	【主】樹冠率	10~20cm	10%	30%
	【主】DBH	10~20cm	15~24cm	10~20cm
	【主】主要構成樹種	キタコブシ	ハナツツカエデ	アカエゾマツ
	【低】樹高	1~5m	2~7m	5m以上
【低】樹冠率	20%	20%	10%	
【低】DBH	5~10cm	1~10cm	5~10cm	
最大樹高樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
樹高	28m	27.3m	23m	23.2m
最大直径樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
直径	18cm	61.8cm	40cm	58.0cm
林床の樹種の割合	50~80%	50~80%	50~80%	80%以上
気象害	-	-	凍害(小)	-
病害害	-	-	-	-
虫害害、調査者のコメント	-	-	-	-
鳥獣被害状況	エゾシカ痕跡	食痕	-	シカ遺、糞、食痕
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	微	-	中
	痕跡のコメント	-	-	エゾシカの下層樹生食痕やや多い
林床植生	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹種率	85%	80%	80%
	樹種高	0.5~1.5m	0.1~1.3m	0.5~1.5m
	天然更新状況	保護対象種一あり 保護対象種以外一あり	保護対象種一あり 保護対象種以外一少ない	保護対象種一あり 保護対象種以外一あり
保護林の状況	常緑樹種が減少し、アカエゾマツの生育は良い。		常緑樹種が減少し、アカエゾマツの生育は良い。コナラ、クワ、クワジヤ、ハナニホリ、キナド、常緑山の樹生がみられる。	
林分等の状況	大きな変化は認められない		大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]		確認された影響[-]	
A 野生動物 B 昆虫害 C 外来種 D 気候 E 自然現象 F その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	



低木層の状況



アカエゾマツの稚樹



アカエゾマツの高木

確認された影響[特になし]
・林相に大きな変化はみられなかった。
・天然更新もみられた。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

23 咲別(さきべつ)オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.23-1			プロットNo.23-2		
図1	図2	比較結果等	図1	図2	比較結果等
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括					
保護林名		咲別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		オオバボダイジュ			
プロットNo.		23-1	23-2	23-3	
日付		2024/8/27	2024/8/27	2024/8/27	
調査日		2024/8/27	2024/8/27	2024/8/27	
標高		355m	324m	324m	
傾斜方位、傾斜平均		W 37°	W 26°	W 26°	
地形		山腹平野部	山腹平野部	山腹平野部	
林分状況	【高】主要構成樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	【高】樹高	20m以上	18~22m	20m以上	23~28m
	【高】樹種率	-	70%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	32~42cm	30cm以上	35~68cm
	【中】主要構成樹種	エゾイタヤ、オオバボダイジュ	アカイタヤ	オオバボダイジュ	サワラ
	【中】樹高	5~10m	7~15m	10m以上	6~17m
	【中】樹種率	-	40%	-	50%
	【中】DBH	10cm未満	7~13cm	10cm未満	11~32cm
	【低】主要構成樹種	ウツノキ、オオバボダイジュ	ウツノキ	カヅラ、シナノキ	エゾイタヤ
	【低】樹高	1~5m	3~7m	1~5m	3~5m
【低】樹種率	-	20%	-	10%	
【低】DBH	5cm未満	2~4cm	5cm未満	2~4cm	
最大樹高	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	
最大直径	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	
直径	30cm	41.5cm	60cm	67.7cm	
保護対象種の分布割合	90%以上	20~50%	80%以上	20%以下	
気象害	-	-	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害、病虫害のリスク	-	-	-	-	
鳥獣被害	エゾシカ被害	シカ、鹿、猪、熊	-	猪、熊	-
	その他の保護	-	キツネ	小	-
	被害の程度	小	-	小	-
	被害のコメント	エゾシカ被害のリスク	スズメの食害のリスク	スズメの食害のリスク	スズメの食害のリスク
林分構成	遷化する植物種	ササゲ、オシロイ、スズメ	クマザサ、オシロイ、スズメ	ササゲ、オシロイ、スズメ	クマザサ
	樹種	樹種	樹種	樹種	樹種
	樹高	0.5~1.5m	0.5~2.8m	0.5~1.5m	0.5~2.4m
	樹種率	樹種率	樹種率	樹種率	樹種率
天然更新状況	保護対象種	あり	少ない	なし	なし
	保護対象種以外	少ない	少ない	少ない	多い
	保護対象種	あり	少ない	なし	なし
	保護対象種以外	少ない	少ない	少ない	多い
保護林の状況	シカの食害	シカの食害は多いが被害は少ない。	オオバボダイジュの生育は良好であり、林分は健全な状態である。	シカの食害は天敵的なものはない。	オオバボダイジュの生育は良好であり、林分は健全な状態である。
	シカの食害	シカの食害は多いが被害は少ない。	オオバボダイジュの生育は良好であり、林分は健全な状態である。	シカの食害は天敵的なものはない。	オオバボダイジュの生育は良好であり、林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響
	確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響	確認された影響
ア 野生鳥獣 イ 気象害 ウ 外来種 エ 盗伐 オ 自然環境 カ その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



オオバボダイジュの実生



オオバボダイジュの結実



オオバボダイジュの高木

確認された影響[特になし]
・林相に大きな変化はみられなかった。
・天然更新もみられた。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

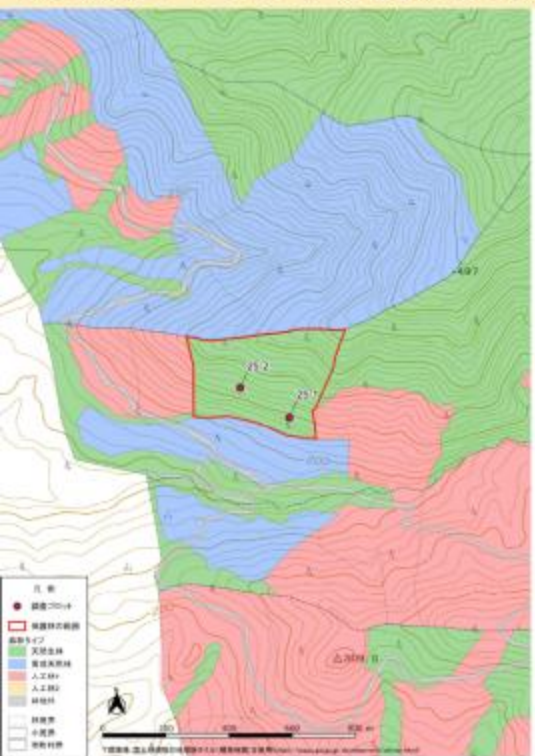
3-3.希少個体群保護林（4/5）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
25	30301	鷹泊ベニイタヤ等遺伝資源希少個体群保護林 (13.06ha)	ベニイタヤ、シナノキ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新も多くにみられた。	10年	確認された影響【特になし】 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
26	30302	鷹泊イタヤカエデ遺伝資源希少個体群保護林 (9.86ha)	イタヤカエデ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新も多くにみられた。	10年	確認された影響【特になし】 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
27	30701	天塩カシワ遺伝資源希少個体群保護林 (12.89ha)	カシワ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響【特になし】 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
28	30702	東遠別ハリギリ等遺伝資源希少個体群保護林 (16.97ha)	ハリギリ、ベニイタヤ、ホオノキ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・ハリギリ、アカイタヤ、ホオノキの立木の生育状態は健全であった。	10年	確認された影響【特になし】 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
29	30703	羽幌キハダ遺伝資源希少個体群保護林 (14.3ha)	キハダ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・キハダの生育は局所的であった。 ・いくつかの風倒木が確認された。	10年	確認された影響【特になし】 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
30	30801	増毛グイマツ遺伝資源希少個体群保護林 (4.28ha)	グイマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新はみられない。	10年	確認された影響【特になし】 ・立木の生育状態は健全であったが、天然更新はみられず、永年的なグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
31	30802	西幌糠ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林 (8.69ha)	ミズナラ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響【特になし】 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

25 鷹泊ベニイタヤ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.25-1				プロットNo.25-2			
	北	南	比較結果等		北	南	比較結果等
北東方向			大きな変化はない。	北東方向			大きな変化はない。
	写真なし。				写真なし。		
北西方向			大きな変化はない。	北西方向			大きな変化はない。
	写真なし。				写真なし。		
南東方向			大きな変化はない。	南東方向			大きな変化はない。
	写真なし。				写真なし。		
南西方向			大きな変化はない。	南西方向			大きな変化はない。
	写真なし。				写真なし。		

保護林森林概況調査 総括				
鷹泊ベニイタヤ等遺伝資源希少個体群保護林				
保護林名	ベニイタヤ、シナノキ		ベニイタヤ、シナノキ	
保護対象種	ベニイタヤ、シナノキ		ベニイタヤ、シナノキ	
プロットNo	25-1		25-2	
旧No	20201-1		20201-2	
調査日	2019/8/22		2024/5/27	
調査員	259m		282m	
プロット情報	5W 22'		5W 22'	
調査方法	山腹平衝和度		山腹平衝和度	
林分状況	【主】主要構成樹種 スズナラ、シナノキ、ホオノキ 【高】樹高 20m以上 【密】樹冠率 80% 【高】DBH 30cm以上 【主】主要構成樹種 アカイタヤ 【高】樹高 10m以上 【密】樹冠率 30% 【高】DBH 10~20cm 【主】主要構成樹種 シナノキ、アカイタヤ 【高】樹高 1~5m 【密】樹冠率 5% 【高】DBH 5~10cm 最大樹高樹種 スズナラ 樹高 24m 最大直径樹種 スズナラ 直径 50cm 保護対象種の非数割合 20~30% 気象害 無し 盗伐害 無し 気象害、盗伐害のリスク 無し		【主】主要構成樹種 スズナラ、シナノキ 【高】樹高 20~28m 【密】樹冠率 80% 【高】DBH 17~57cm 【主】主要構成樹種 アカイタヤ 【高】樹高 11~20m 【密】樹冠率 30% 【高】DBH 10~23cm 【主】主要構成樹種 ツバハシ、シナノキ 【高】樹高 3~3m 【密】樹冠率 5% 【高】DBH 3cm未満 最大樹高樹種 アカイタヤ 樹高 20m 最大直径樹種 アカイタヤ 直径 40cm 保護対象種の非数割合 80%以上 気象害 無し 盗伐害 無し 気象害、盗伐害のリスク 無し	
鳥獣被害	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度 痕跡のコメント		食痕 痕跡 痕跡	
林床状況	着点する植物種 オオカメノキ 樹冠率 疎生または散生 樹高 2.5~1.5m 天然更新状況 保護対象種一多い 保護対象種以外一多い		ツタウルシ 疎生または散生 樹高 2.5~1.7m 天然更新状況 保護対象種一多い 保護対象種以外一多い	
保護林の状況	林床はエゾシカ、エゾリス、ツバハシが多い。実数は多く、種数も豊富で林況は良い。		スズナラ、シナノキが着点し、木本植物の種数が多い。天然更新は進んでおり、林分は健全な状態である。	
林分等の状況	大きな変化は認められない		大きな変化は認められない	
評価・課題等 確認された影響	確認された影響[-]		確認された影響[-]	
ア 野生鳥獣 イ 盗伐害 ウ 外來種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
エ 盗伐化 オ 自然環境 カ その他	特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	



アカイタヤの実生



シナノキの高木



アカイタヤの高木

確認された影響[特になし]
・林相に大きな変化はみられなかった。
・天然更新も多くみられた。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

26 鷹泊イタヤカエデ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.26-1			プロットNo.26-2		
方位	写真	比較結果	方位	写真	比較結果
北東		大きな変化はない。	北東		大きな変化はない。
北西		大きな変化はない。	北西		大きな変化はない。
南東		大きな変化はない。	南東		大きな変化はない。
南西		大きな変化はない。	南西		大きな変化はない。
天頂		大きな変化はない。	天頂		大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括				
調査項目	調査内容	調査結果	調査結果	調査結果
保護林名	鷹泊イタヤカエデ遺伝資源希少個体群保護林			
調査対象種	イタヤカエデ			
調査地点	26-1, 26-2			
調査日	2019/8/31, 2024/5/30			
調査時間	429m, 352m			
調査方法	目視・測距・傾斜計			
調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
林分状況	ダケカンバ, エゾイタヤ	ダケカンバ, エゾイタヤ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
鳥獣類状況	シカ, 鹿, 猪	シカ, 鹿, 猪	シカ, 鹿, 猪	シカ, 鹿, 猪
林床状況	オオカメノキ	オオカメノキ	オオカメノキ	オオカメノキ
保護林の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア 野鳥類	イ 鳥害等	ウ 外来種	エ 道端化	オ 自然環境
イ 鳥害等	ウ 外来種	エ 道端化	オ 自然環境	カ その他
ウ 外来種	エ 道端化	オ 自然環境	カ その他	
エ 道端化	オ 自然環境	カ その他		
オ 自然環境	カ その他			
カ その他				



イタヤカエデの実生



イタヤカエデの高木



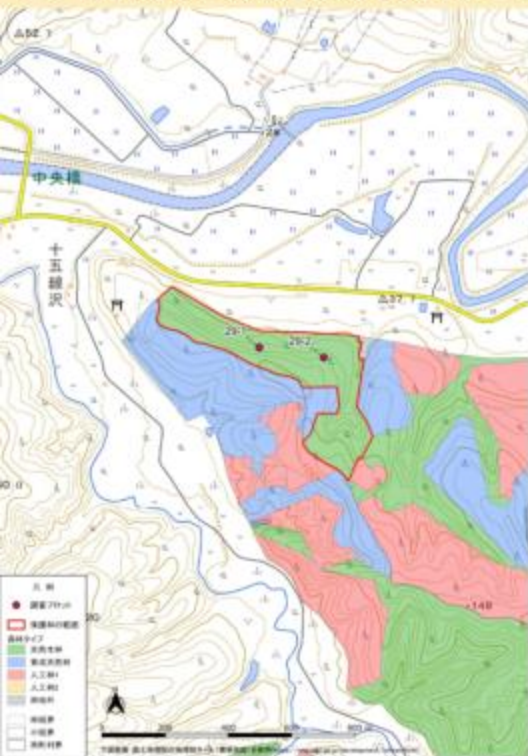
イタヤカエデの稚樹

確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新も多くみられた。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

29 羽幌キハダ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.29-1

プロットNo.29-2

保護林森林概況調査 総括

プロットNo.29-1			プロットNo.29-2		
方位	写真	比較結果等	方位	写真	比較結果等
北東		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。	北東		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
北西		林床ではクマイザサが一斉枯死。	北西		林床ではクマイザサが一斉枯死。
南東		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。	南東		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
南西		林床ではクマイザサが一斉枯死。	南西		林床ではクマイザサが一斉枯死。
天頂		大きな変化はない。	天頂		大きな変化はない。

保護林系		羽幌キハダ遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種		キハダ	
プロットNo.		29-1	29-2
調査日		2019/5/30	2024/5/13
調査員		山田 平	山田 平
プロット情報		75m	75m
調査方法、種別、平均		N 29°	N 13°
調査地		山頂平野	山頂平野
林分状況	【主】主要構成樹種	キハダ	シナノキ、トドマツ
	【高】樹高	20m以上	20m以上
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上
	【主】主要構成樹種	シナノキ、トドマツ	シナノキ、トドマツ
	【高】樹高	12~15m	10~15m
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	10~20cm	11~17cm
	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
鳥獣害状況	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	10~20cm	11~17cm
	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	10~20cm	11~17cm
	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
林床状況	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	10~20cm	11~17cm
	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	10~20cm	11~17cm
	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
保護林の状況	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	10~20cm	11~17cm
	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m
	【高】樹種率	100%	100%
	【高】DBH	10~20cm	11~17cm
	【主】主要構成樹種	アカイダサ	アカイダサ
	【高】樹高	2~8m	1~7m



キハダ

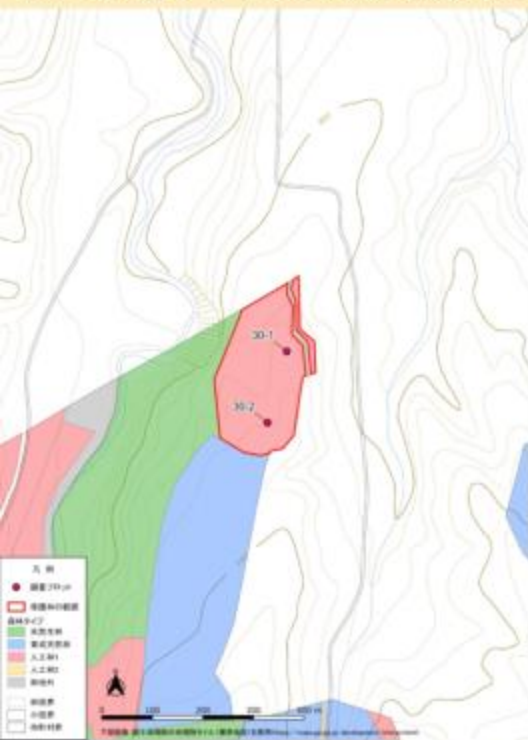


亜高木層の状況

確認された影響[特になし]
・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには、前回調査から大きな変化はなかった。
・キハダの生育は局所的であった。
・いくつかの風倒木が確認された。

30 増毛グイマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.30-1			プロットNo.30-2		
写真1	写真2	比較結果等	写真1	写真2	比較結果等
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
		-			-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
		-			-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括

保護林名		増毛グイマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		グイマツ			
プロットNo.		30-1	30-2	30-1	30-2
調査日		2019.8.29	2024.6.12	2019.8.29	2024.6.12
標高		239m	245m	239m	245m
プロット情報		調査方法: 植物(平均)	調査方法: 植物(平均)	調査方法: 植物(平均)	調査方法: 植物(平均)
調査地		中谷草場	中谷草場	中谷草場	中谷草場
林分状況	【高】主要構成樹種	グイマツ	グイマツ	グイマツ、アカイタヤ	グイマツ
	【高】樹高	20m以上	20~26m	20m以上	17~26m
	【高】樹種率	-	80%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	28~43cm	30cm以上	22~55cm
	【中】主要構成樹種	コシアブラ	ホオノキ、グイマツ	アカイタヤ	アカイタヤ
	【中】樹高	10m以上	9~18m	10m以上	7~14m
	【中】樹種率	-	50%	-	20%
	【中】DBH	10~20cm	8~22cm	10~20cm	11~18cm
	【低】主要構成樹種	アカイタヤ	アカイタヤ	アカイタヤ	アカイタヤ
	【低】樹高	1~5m	2~5m	5m以上	3m
鳥獣被害	【低】樹種率	-	10%	-	5%
	【低】DBH	5~10cm	2~5cm	5~10cm	8cm
	最大樹高樹種	グイマツ	グイマツ	グイマツ	グイマツ
	樹高	25m	25.8m	25m	25.3m
	最大直径樹種	グイマツ	グイマツ	グイマツ	グイマツ
	直径	40cm	43.5cm	40cm	34.7cm
	保護対象種の非対象割合	50~80%	50~80%	50~80%	50~80%
	気象害	風害(小)	-	風害(小)	-
	所産害	-	-	-	-
	気象害、所産害のコメント	風害(小)	風害(小)	風害(小)	風害(小)
林況補足	エゾシカ被害	-	-	-	-
	その他被害	-	-	-	-
	保護の程度	-	-	-	-
林況補足	保護のコメント	-	-	-	-
	確認される植物種	チシマザサ	クマイザサ	チシマザサ	クマイザサ
	樹種率	100%	100%	90%	90%
	樹高	0.5~1.5m	0.5~2.2m	0.5~1.5m	0.5~2.0m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→普通	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない
保護林の状況		風害木、立ち枯れが少数みられる。	グイマツが優占するが、天然更新はみられない。林分としては健全な状態である。	風害木、立ち枯れが少数みられる。	グイマツが優占するが、天然更新はみられない。林分としては健全な状態である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア 野生鳥獣 イ 気象害 ウ 外来種		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
エ 盗伐被害 オ 自然災害 カ その他		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
フ 評価・課題等確認された影響		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



低木層の様子



グイマツの高木

確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新はみられない。
- ・立木の生育状態は健全であったが天然更新がみられないため、永年的なグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

31 西幌糠ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



ミズナラの実生

プロットNo.31-1			プロットNo.31-2		
R1	R2	比較結果等	R1	R2	比較結果等
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。			林床ではクマイザサが一斉枯死。
写真なし		林床ではクマイザサが一斉枯死。	写真なし		林床ではクマイザサが一斉枯死。
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。	写真なし		林床ではクマイザサが一斉枯死。
写真なし		林床ではクマイザサが一斉枯死。	写真なし		林床ではクマイザサが一斉枯死。
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。



ミズナラの高木

保護林森林概況調査 総括				
西幌糠ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種		ミズナラ		
プロットNo.		31-1	31-2	31-2
旧No.		20802-2	20802-1	20802-1
調査日		2019/9/14	2024/6/11	2019/9/14 2024/6/11
標高		104m	77m	
プロット情報		調査方法、標高(平均)	5 18'	5 17'
		調査地	山頂の斜面	山頂の斜面
林分状況	【主】主要構成樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
	【主】樹高	20m以上	24~30m	20m以上
	【主】樹冠率	-	80%	80%
	【主】DBH	30cm以上	28~99cm	30cm以上
	【主】主要構成樹種	アカイタヤ	アカイタヤ	アカイタヤ
	【主】樹高	5~10m	8~18m	5~10m
	【主】樹冠率	-	30%	30%
	【主】DBH	10cm未満	12~19cm	10cm未満
	【他】主要構成樹種	アカイタヤ、ヤマブキ	ハクチョウカエデ	ハクチョウカエデ
	【他】樹高	1~5m	3~5m	1~5m
鳥獣駆除状況	【他】樹冠率	-	10%	20%
	【他】DBH	5cm未満	2~5cm	5cm未満
	最大樹高樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
	樹高	21m	28.8m	24m
	最大直径樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
	直径	80cm	65.8cm	58.8cm
	保護対象種の割合	50~80%	50~80%	50~80%
	気象害	-	風害(小)	-
	地産害	-	-	-
	鳥獣害、害虫害の発生	-	-	-
林床状況	エゾシカ駆除	-	-	-
	その他駆除	-	-	-
	駆除の程度	-	イタチ類	イタチ類
	駆除のコメント	-	イタチ類の糞あり	-
	遺棄する植物種	クマイザサ	クマイザサ(枯れ)	クマイザサ、サシマザサ
	樹冠率	密生	80%(ササ枯れ含む)	80%(ササ枯れ含む)
	樹高	0.5~1.5m	10%(ササ枯れ含む)	10%(ササ枯れ含む)
	天然更新状況	保護対象種一少ない	保護対象種一普通	保護対象種一なし
		保護対象種以外一多い	保護対象種以外一多い	保護対象種以外一普通
	保護林の状況	トドマツの天然更新が多い。ミズナラは大径木が多い。	林床のクマイザサは枯死しており、ミズナラおよびその他の樹種の天然更新がみられる。林分は健全な状態である。	ミズナラの立木が多い。ササが密生し、更新木は少ない。林分は健全な状態である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[○]	確認された影響[-]
ア 野生鳥獣 イ 気象害 ウ 外來種		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
エ 盗伐化 オ 自然保護 カ その他		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
一 特になし		-	-	-

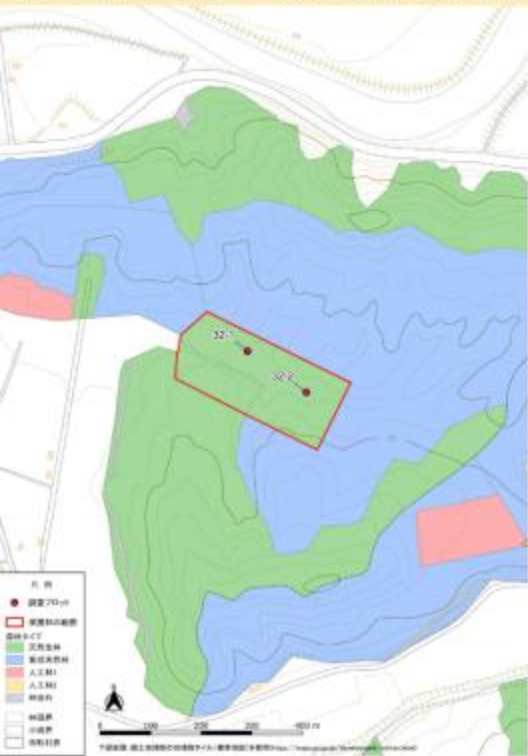
確認された影響[特になし]
・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには、前回調査から大きな変化はなかった。
・天然更新もみられた。

3-3.希少個体群保護林（5/5）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
32	30803	達布ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林 (5.00ha)	ヤチダモ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・ヤチダモの立木の生育は健全であり大木も見られた。 ・プロットNo.2でクマイザサの枯死が見られたほかは前回調査から大きな変化はなかった。 ・ヤチダモの天然更新も豊富にみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
33	30804	古丹別トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (6.05ha)	トドマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
34	31001	曲淵グイマツ遺伝資源希少個体群保護林 (25.58ha)	グイマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新はみられない。	10年	確認された影響[特になし] ・立木の生育状態は健全であったが、天然更新はみられず、永年のグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
35	31002	鬼志別エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (9.19ha)	エゾマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
36	31003	志美宇丹ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林 (37.89ha)	ミズナラ、トドマツ、シナノキ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・ミズナラ以外の種では天然更新がみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
37	31004	音標モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林 (15.87ha)	モンゴリナラ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

32 達布ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.32-1			プロットNo.32-2		
写真	写真	比較結果	写真	写真	比較結果
		大きな変化はない。			クマイザサ枯死あり。
写真なし		-	写真なし		クマイザサ枯死あり。
		大きな変化はない。			クマイザサ枯死あり。
写真なし		-	写真なし		クマイザサ枯死あり。
		大きな変化はない。			クマイザサ枯死あり。

保護林森林概況調査 総括				
保護林名	達布ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種	ヤチダモ			
プロットNo.	32-1	32-2	32-3	32-4
旧No.	30803-2	30803-2	30803-1	30803-1
調査日	2019/6/30	2024/6/12	2019/6/30	2024/6/12
標高	33m	36m	36m	36m
プロット情報	W 1'	W 1'	W 1'	W 1'
局所地形	山腹緩傾		山腹緩傾	
【主】主樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
【高】樹高	20m以上	20～30m	20m以上	18～30m
【高】樹冠率	-	80%	-	80%
【高】DBH	20cm以上	18～30cm	20cm以上	25～30cm
【主】主樹種	クヤマハシノキ	クヤマハシノキ	クヤマハシノキ	クヤマハシノキ
【高】樹高	10m以上	8m	10m以上	10m
【高】樹冠率	-	5%	-	10%
【高】DBH	20cm以上	30cm	20cm以上	14cm
【主】主樹種	クヤマハシノキ	クヤマハシノキ	クヤマハシノキ	クヤマハシノキ
【高】樹高	5m以上	-	5m以上	5m
【高】樹冠率	-	-	-	1%
【高】DBH	10cm以上	-	10cm以上	4cm
最大樹高	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
樹高	30m	35.8m	30m	38.4m
最大直径	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
直径	75cm	83.0cm	80cm	87.5cm
保護対象種の年齢割合	80%以上	80%以上	50～80%	50～80%
気象害	-	-	風害(小)	-
病虫害	-	-	-	-
気象害、病虫害コメント	-	-	-	-
エゾシカ被害	シカ道	食痕	シカ道、足跡	シカ道、食痕
その他被害	-	-	-	-
伐跡の状況	シカ道があるが、伐跡は少数	-	-	-
伐跡のコメント	-	-	-	-
伐跡の状況	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
樹冠率	80%	90%	80%	90%
樹冠率	80%	90%	80%	90%
天然更新状況	保護対象種以外少ない	保護対象種以外少ない	保護対象種以外少ない	保護対象種以外少ない
保護林の状況	ヤチダモの更新は見られない。巨木が多く、密林が広い。	ヤチダモの巨木が見られる。林床のクマイザサは枯死しており、ヤチダモの再生が著しいとみられる。林分は健全な状態である。	ヤチダモの巨木が見られる。林床のクマイザサは枯死しており、ヤチダモの再生が著しいとみられる。林分は健全な状態である。	ヤチダモの巨木が見られる。林床のクマイザサは枯死しており、ヤチダモの再生が著しいとみられる。林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	クマイザサ枯死あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[+]
ア 野生鳥獣	イ 伐木害	ウ 外来種	エ 盗伐	オ 自然保護
エ 盗伐	オ 自然保護	カ その他	キ その他	ク その他
キ その他	ク その他	ク その他	ク その他	ク その他

確認された影響[特になし]
・ヤチダモの立木の生育は健全であり、高木も見られた。
・プロットNo.2でクマイザサの枯死が見られたほかは、前回調査から大きな変化はなかった。
・ヤチダモの天然更新も多くみられた。



ヤチダモの高木



ヤチダモの稚樹

34 曲淵(まがりふち)グイマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.34-1			プロットNo.34-2		
R1	R2	比較結果等	R1	R2	比較結果等
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括				
希少グイマツ遺伝資源希少個体群保護林				
保護林名	グイマツ			
保護対象種	グイマツ			
プロットNo.	34-1	34-2	31001-1	31001-2
調査日	2019/9/28	2024/9/22	2019/9/28	2024/9/22
調査員	S			
プロット情報	平均高木			
調査方法	平均高木			
林分状況	グイマツ	グイマツ	グイマツ	グイマツ
【高】主幹形成樹種	グイマツ	グイマツ	グイマツ	グイマツ
【高】樹高	20m以上	18~22m	20m以上	25~30m
【高】樹冠率	-	80%	-	90%
【高】DBH	20cm以上	24~46cm	20cm以上	26~45cm
【中】主幹形成樹種	クハダ	クハダ	クハダ	クハダ
【中】樹高	5~10m	5~18m	5~10m	5~16m
【中】樹冠率	-	5%	-	30%
【中】DBH	10cm未満	18cm	10cm未満	8~12cm
【低】主幹形成樹種	-	-	-	ナナカマダ
【低】樹高	-	-	-	3m
【低】樹冠率	-	-	-	5%
【低】DBH	-	-	-	4cm
最大樹高樹種	グイマツ	グイマツ	グイマツ	グイマツ
最大樹高	20m	22.1m	20m	20.2m
最大直径樹種	グイマツ	グイマツ	グイマツ	グイマツ
最大直径	50cm	45.1cm	60cm	44.2cm
保護対象種の更新割合	50~80%	80%以上	80%以上	80%以上
気象害	風害(小)	-	-	-
病虫害	-	-	-	-
気象害、病虫害のリスク	風害(小)	-	-	-
鳥獣被害	-	食害	-	-
その他被害	-	-	ネズミ類	-
底層のニッチ	-	-	-	エゾシカ等類(ニッチ)
林況	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
樹高	100%	100%	100%	100%
樹冠率	0.5~1.0m	0.1~2.0m	0.5~1.0m	0.1~1.0m
保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし
天然更新状況	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし
保護林の状況	主幹層以下はクハダとエゾシカが少数のみ。ササが密生しており天然更新はみられない。	主幹層はクマイザサが密生し、天然更新はみられないが、林分は健全な状態である。	ササが密生しており、天然更新はみられない。	主幹層はクマイザサが密生し、天然更新はみられないが、林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア 野生鳥獣	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
イ 病虫害	-	-	-	-
ウ 気象害	-	-	-	-
エ 自然環境	-	-	-	-
オ その他	-	-	-	-



低木層の状況



グイマツの高木

確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新はみられない。
- ・立木の生育状態は健全であったが天然更新はみられず、永年的なグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

37 音標(おとしべ)モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.37-1			プロットNo.37-2		
北	南	比較結果	北	南	比較結果
		大きな変化はない。			-
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			-
写真なし		-	写真なし		-
		大きな変化はない。			大きな変化はない。
写真なし		-			-

保護林森林概況調査 総括				
保護林名	音標モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種	エズナラ(モンゴリナラ)			
プロットNo	37-1	37-2	37-1	37-2
区画No	31004-1	31004-2	31004-1	31004-2
調査日	2019/8/28	2024/9/27	2019/8/28	2024/9/27
標高	8m	10m	8m	10m
プロット情報	調査方法: 補助: 平地	調査方法: 補助: 平地	調査方法: 補助: 平地	調査方法: 補助: 平地
林分状況	【林】主要構成樹種	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)
	【高】樹高	10~20m	10~13m	10~20m
	【密】樹密度	80%	80%	70%
	【高】DBH	20~30cm	22~40cm	20~30cm
	【林】主要構成樹種	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)
	【高】樹高	5m以下	5m以下	8~9m
	【密】樹密度	-	-	10%
	【高】DBH	10cm未満	10cm未満	15~16cm
	【林】主要構成樹種	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)
	【高】樹高	15m	12.8m	15m
鳥獣類被害	最大直径樹種	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)	エズナラ(モンゴリナラ)
	樹高	30cm	40.2cm	30cm
	直径	30cm	40.2cm	43.5cm
	保護対象種の被害割合	80%以上	80%以上	80%以上
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象・病虫害のコメント	-	-	-
	エンジン・燃料	-	-	-
	その他	-	-	-
	被害の程度	-	-	-
林況調査	伐倒のコメント	-	-	-
	伐倒する種別	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹高	100%	100%	100%
	直径	0.5~1.5m	0.5~1.5m	0.5~1.5m
	天然更新状況	保護対象種一なし	保護対象種一なし	保護対象種一なし
	保護対象種以外一なし	保護対象種以外一なし	保護対象種以外一なし	保護対象種以外一なし
	保護林の状況	ササが密生し、天然更新はみられない。	エズナラ・モンゴリナラの天然更新は密生のみみられる。林分は健康な状態である。	結果が少しみられる。ササが密生し、天然更新はみられない。
	林分の状況	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	ア 野生鳥獣 イ 害虫 ウ 外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



モンゴリナラの堅果



モンゴリナラ



モンゴリナラの実生

確認された影響[特になし]
・林相に大きな変化はみられなかった。
・天然更新もみられた。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。